

田園環境都市おやまビジョン 基礎資料

間々田地区



2025 年 1 月

小山市

田園環境都市おやまビジョン 基礎資料 | 間々田地区

目次

I 調査の趣旨と調査概要 …… 1

- 1 目的
- 2 本調査の「風土性調査」としての性格付け
- 3 地域での各種調査
- 4 調査報告 …… 2
- 5 田園環境都市おやまビジョン基礎資料の作成

II 踏査および文献調査による報告 …… 3

- 1 間々田地区の概況
- 2 地域の自然について …… 4
- 3 地域の自然への人の働きかけについて …… 10
- 4 地域と人々の心身の結びつき …… 26
- 5 景観から読みとれるその他のこと …… 29

III 簡易社会調査による報告 …… 32

- 1 目的と実施概要
- 2 結果整理の手法について …… 33
- 3 各調査の結果報告 …… 34
 - 3-1 グループインタビューの記録
 - 3-2 アンケート調査結果（概要と考察） …… 57

参考・引用文献 …… 73

I 調査の趣旨と調査概要

1 目的

小山市では、生態系の頂点に立つコウノトリが定着・繁殖するラムサール条約湿地「渡良瀬遊水地」を擁する、都市環境と田園環境が調和したまちとして、小山市の現在の環境を将来にわたり維持向上させていくため、これからのまちづくりを「田園環境都市おやま」と呼び、SDGs の実践と一体化したまちづくりに取り組もうとしている。

本調査は、上記背景を踏まえて、踏査（現地調査）、地域の聞き取り調査、文献調査を実施して基礎資料を作成し、小山市における持続可能な社会実現に向けた「田園環境都市おやま」を具現化させるとともに、市民・企業・市民団体・行政など各主体に「田園環境都市おやま」を浸透させて各種取り組みの深化を図るものである。

2 本調査の「風土性調査」としての性格付け

本調査は、地域の風土性（風土の性質、成り立ち）に着目して行った。「気候風土」から「企業風土」まで、人々になじみのある風土は、地域の自然に人間が暮らしと生業を通して働きかけてかたちづくられる（詳細はⅡ章を参照）。

こうした風土の調査は、地域に暮らす市民とともに地域の自然と人間の関係のこれまでを知ることになる。そして、そこから地域の持続可能なあり方を考えていくことが可能となる。また、ある専門分野の中で行われる地域研究とは違い、調べる対象は自然から社会、文化まで幅広く、それ

ら風土の要素を分析し、要素の間の関係を調べた結果を総合・統合することで風土の成り立ちが読み解けてゆくため、地域の実像を浮かび上がらせることに結びつき得る。

このように、持続可能なまちづくりに市民と行政が共同で取り組む際に依って立つ基盤と考えられる風土性調査として、本調査は実施することとした。

3 地域での各種調査

令和6年5月5日から8月1日までを調査期間として、踏査（現地調査）、簡易社会調査2種（聞き取り調査、アンケート調査）、文献調査を組み合わせで行った。以下に、概要を示す。

3-1 踏査

間々田地区及びその周辺で踏査を行い、後述する文献調査を適宜組み合わせて、調査地区の地理や動植物の生態、地域の歴史や民俗に関する情報を収集し、地理的条件が土地利用、都市環境・田園環境それぞれの市街地・集落の構成にどのように生かされ、建築物や土木構造物の形態等にどう影響しているのか調査した。また、これらと地域の人々の生活や生業との関係性や、どのように地域の産業や文化等を生みだし発展させ、現在の風土形成にいたっているかについて調査を行った。

踏査は、必要に応じて市担当者と業務受託者が共同で実施した。

I 調査の趣旨と調査概要

3-2 簡易社会調査1 ― 地域の聞き取り調査

当該地区の将来のまちづくりに資するキーパーソンを対象に、グループインタビューとして聞き取り調査を行った。

とともに、市民・企業・市民団体・行政等各主体に「田園環境都市おやま」を浸透させて各種取り組みの深化を図るための基礎資料として、本報告書を作成した。

3-3 簡易社会調査2 ― アンケート調査

現地調査と聞き取り調査をもとに、調査地区在住の市民が知る情報等をさらに少しでも多く集めることと、「田園環境都市おやま」の具現化に向けた取り組みの周知を目的として、地域の現状や課題それらに対する意見等を尋ねるアンケート調査を行った。

3-4 文献調査

各調査に必要な情報収集のため、当該地区に関連する各種文献について調査を行った。なお、市は業務受託者へ市史や調査対象地区に関する資料を貸与もした。

4 調査報告

風土性調査の結果を調査地区在住の市民に伝える報告発表を下記日程、会場において行った。

- ・ 日程 令和6年8月2日(金) 18:00-19:30
- ・ 会場 小山市間々田市民交流センター（しらさぎ館）

5 田園環境都市おやまビジョン基礎資料の作成

上記4で行った報告と当日の質疑応答の結果を踏まえて、「田園環境都市おやま」を具現化させる

Ⅱ 踏査および文献調査による報告

1 間々田地区の概況

間々田地区の位置、面積、人口と沿革

間々田地区は、明治 22 年（1889）の町村制施行にあたり間々田宿、千駄塚、栗宮、西黒田、東黒田、南飯田、平和、乙女の一宿七村が合併した間々田村をもととする。地区の面積 18.21km² は市の面積の約 10.6%、人口 28,825 人は市の人口の約 17.3%を占める。（令和 2 年 10 月 1 日現在。「令和 6 年 3 月 小山市の概要」より）。

間々田地区は、ほとんどが宝木台地の上に立地し、一部が台地の下の思川低地（思川左岸）にある。台地の上には北から南へ谷がのびる他、東から西へと台地の縁の近くから低地に谷が下つてもいる。台地から低地に谷が下る付近には、旧石器時代から古墳時代にかけての遺物が見つかった乙女北浦遺跡や白鳳 8 年建立の下野薬師寺に瓦を供給した乙女不動原瓦窯跡（680）、天平年間（729～749）に祀られたと伝わる間々田八幡宮などがのこされる。

中世には、鎌倉街道が通された。近世には日光街道が整備され、間々田宿が置かれ、思川に乙女河岸が設けられて、間々田地区は栄えてきた。

近代に入ると、そうした歴史を背景に鉄道駅が開業し、日光街道を踏襲した国道 4 号沿道を中心に市街化が進み、同国道と JR 東北本線、東北新幹線は町内の区分に一部影響を及ぼした。この市街地の東西と南側に、市街化調整区域の農地、集落、台地斜面林、平地林が広がっている。

市街地の成り立ち

間々田地区の市街地は、近世の間々田宿をもととして拡張され、現在に至る。龍昌寺が開かれた慶長 11 年（1606）前後に、同寺から北側に宿場町の整備が始まり、享保年間（1716～1736）には、街道の両側に家並みが連なる景観が形成されている。寺院は他に、宿の北部に浄光院と行泉寺が創立され、龍昌寺を合わせた三寺とも境内地を貸す門前町経営を行っていた。

明治 27 年（1894）に日本鉄道奥州線（現 JR 東北本線）の間々田駅が開設され、同 32 年（1899）に乙女人車鉄道で乙女河岸と結ばれると、間々田地区では商工業化が進み、転入によって人口が増え、旧来の市街地に裏町と呼ばれる新街区がかたちづくられた他、鉄道駅を擁することになった乙女の側にも市街地は拡張された。

以降も人口増加は続き、市街地は北側の千駄塚、栗宮ともつながった。昭和 45 年（1970）からは、間々田駅東土地区画整理事業が行われ、JR 東北本線の東側にも市街地が広げられてきた。

市街地の東西をはさむ田園の肖像

間々田地区では、東西に広がり、国道 4 号と JR 東北本線に沿って南北に連なった市街地を、地区西部の水田と台地斜面林、東部の田畑や果樹園、平地林がはさんでいる。西部の台地斜面下では、地下水の湧出が見られる。間々田八幡宮の弁天池（八幡池）は、台地の東から西に下る谷に湧く水、集まる水を溜めて水田に引くの用にいられてきた。

東部では、栗宮溜を経て美しが丘を抜ける宮戸川と、東黒田と西黒田の間を抜けるその支流などを水源として農業が営まれてきている。

2 地域の自然について

本調査における風土の定義

風土とは、
地域の自然に
人間が暮らしと生業を通して
働きかけてかたちづくられる、
人々が生きる環境のことをいいます。

蘭田稔編『神道』弘文堂、1988年、総372頁
アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン『生活世界の構造』那須壽監訳、筑摩書房、2015年、総634頁

図1 風土の定義

実際に地域を見て歩く踏査と、地域について書かれた書籍や論文に学ぶ文献調査を組み合わせ、地域の風土性について調査を行った。この調査は、はじめに「地域の自然について」、次に「地域の自然への人の働きかけについて」、続いてそのようにかたちづくられた「地域と人々の心身の結びつき」について、そして「景観から読みとれるその他のこと」を調べて記述する流れで実施した。

以下、その結果を市民への視覚的な説明にも用いられるようにスライドショーとして整理したものを、順に掲載する。図1には、再び風土の定義を示した。

出典 | 蘭田稔編『神道』(弘文堂、1988年、総372頁)。アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン『生活世界の構造』(那須壽監訳、筑摩書房、2015年、総634頁)

なお、踏査は以下の日程で実施した。

05月05日(日) 中部(間々田のジャガマイタ)

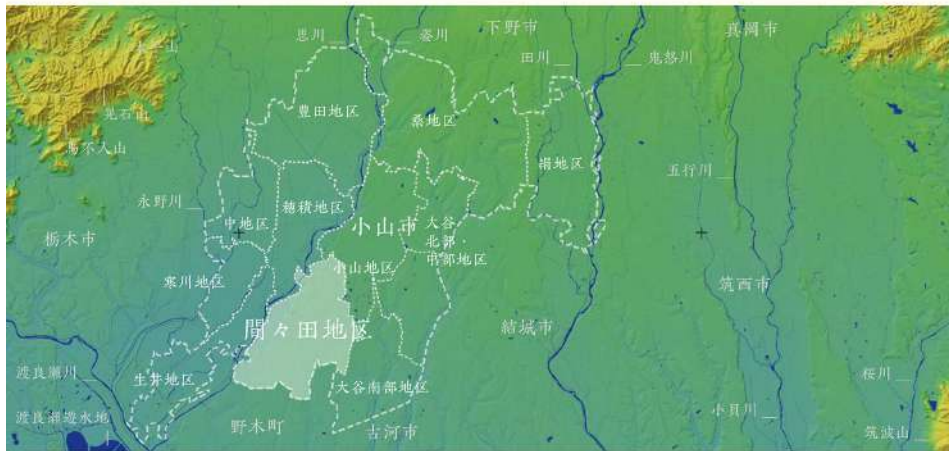
15日(水) 東部(間々田→平和→南飯田→東黒田→西黒田→美しが丘→間々田)

16日(木) 南部・西部(間々田→乙女[楓山→磯の宮→寒沢→中妻→乙女→南乙女]→間々田)

21日(火) 中部(間々田→乙女→間々田→東間々田→美しが丘→東間々田→平和→暁→間々田)

22日(水) 北部(間々田→千駄塚→栗宮→美しが丘→東間々田→暁)

地域の自然について



間々田地区は、小山市南部に位置し、

図2 小山市の地区区分と間々田地区の位置

市域は、旧町村の区分に基づいて11地区に分けられ、当地区はその南部に位置する。

出典 | 国土地理院 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)



ほぼ宝木台地上に、
西部の一部が思川低地上に立地します。

出典: 小山市史編さん委員会『小山市史 通史編1自然・歴史・文化』小山市、1984年、10頁

図3 小山市と間々田地区の地形。地区は、ほぼ宝木台地（黄緑で着色）の上に立地する。

出典 | 国土地理院 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)

II 踏査および文献調査による報告

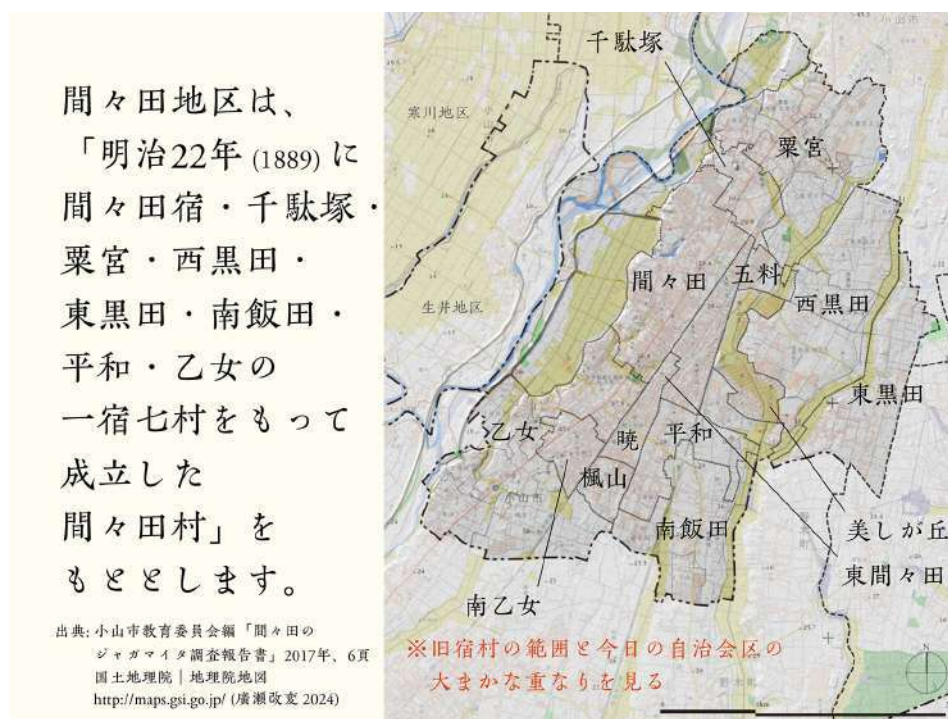
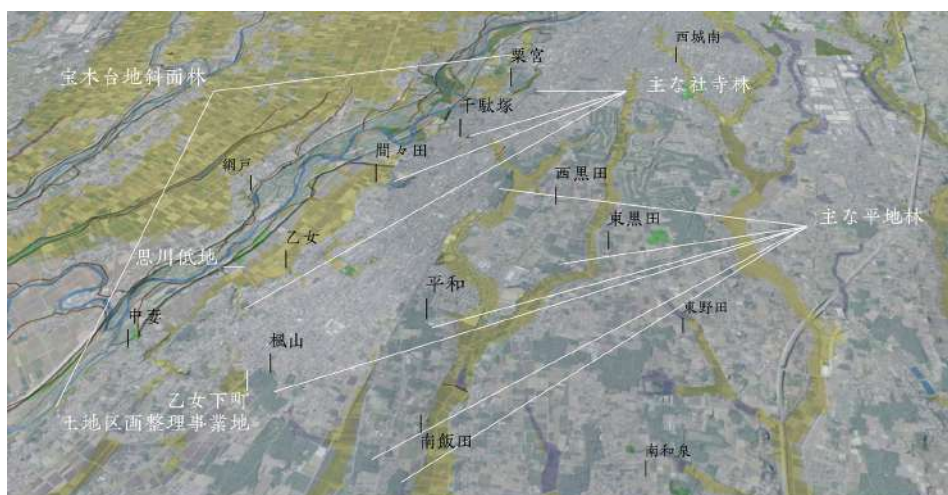


図4 明治22年(1889)に間々田村となった一宿七村の位置。

出典 | 小山市教育委員会編「間々田のジャガマイタ調査報告書」2017年、6頁。国土地理院 | 地理院地図
<http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)



近世の西部は日光街道の宿場と思川舟運の河岸を
擁し、以降市街化するも台地斜面林や社寺林が残り、
東部の平地林や田畑と共に生物の生息・生育地に。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編1 自然 環境 - 古代 中世』小山市、1994年、10頁

図5 治水地形分類図と陰影起伏図に空中写真を重ね、緑地の分布状況を見る。

出典 | 国土地理院 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



宝木台地斜面林と斜面下の山下通り。乙女-間々田。2024/05/21



山下通り。泉龍寺下。乙女



同。北浦公園につながる区間。乙女



山下通り北から野球場へ至る道。間々田

乙女から間々田にかけての台地斜面の下には、
遊歩道「山下通り」が整備されます。

図6 宝木台地の斜面の下に通された山下通り。

山下通りは、小山市立博物館に面した斜面林を活かして設けた亀田公園、乙女かわらの里公園、および乙女北浦遺跡、鎌倉街道跡を擁し、斜面林を残した北浦公園を結ぶ遊歩道である。



台地斜面から湧出する水。2024/06/08



トウキョウダルマガエル。同左



ギンズナまたはキンズナ。2024/05/21



ミカニビ。2024/05/21



サツガニ(遺骸)。同左



カワニナ。間々田。同左

山下通り北から北に伸びる遊歩道沿いの水路で
見られた、湧水と生物の一部です。

図7 山下通り北側のしらさぎ館脇に伸びる道には水路が沿い、斜面下の湧水を受けている。

道の西側の水田ではコチドリ、水田脇にヨシが群生した箇所ではオオヨシキリも見られた。

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



安房神社のモミ群落。栗宮。2024/05/22

「栗宮にある安房神社は千余年の歴史をもつ
延喜式内神社である。社の裏にモミの大木を
中心とするほぼ自然の状態の森がある」。

出典：小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅰ自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、72頁。延喜式は格式の一つ。巻9、10の神明帳に当時朝廷が重く見た神社が掲載される。

図8 安房神社のモミ群落。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅰ 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、72頁。
延喜式は格式の一つ。巻9、10の神明帳に当時朝廷が重く見た神社が掲載される



安房神社社叢林西部を抜ける中世の鎌倉道。栗宮。2024/05/22

同神社社寺林西縁(写真左手)に接する侵食谷と台地斜面林。同左

地区西部では、大きくは台地斜面林と低地の水田、
細かくは浅間神社のように独立した社寺林と台地
上の谷の水田などにより、樹林と水辺が接します。

出典：小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅰ自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、72頁。

図9 東から西へと台地の縁の近くから低地へと下る谷の一つ。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅰ 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、72頁

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



ケヤキの木立と水田、畑地が直接つながる箇所もある侵食谷。写真左は北から南、同右は南から北を見る。東黒田。2023/06/19

「棚田で両生類が多様に生息するのは、水田と樹林が
接続する空間の密度が高い (中略) 多くの平地農業
地域では既に失われ」。ある程度までは、東部にも。

出典: 大澤啓志「農村ランドスケープにおける両生類の特徴と農村計画」『農村計画学会誌』35 (4)、農村計画学会、2017年、473-476頁

図 10 東黒田を抜ける水路。間々田東小学校の南側で宮戸川に合流する。

図 9、10 に写る景観（ランドスケープ）は、地形、空間の大きさは異なるが、水田、湿地と樹林が連なる点で共通する。こうした景観を呈する環境が、水辺と陸地を行き来する両生類のような生物にとってどのような意味を持つかについて説明した論文の一節を、途中省略をしながら図 10 のスライドに引用した。ここでは、その前後を合わせて省略せずに参考として引用する。

「低地の水田と比較して棚田で両生類が多様に生息するのは、水田と樹林が接続する空間の密度が高い、内外に半自然草地在豊富、多様な水辺環境の存在が挙げられる。これらの要件は何も棚田に限ったものではなく、本来は広く農村域にも普通にあったのであるが、多くの平地農業地域では既に失われ、棚田では良く残されているのである。

逆の視点で両生類の目から見た農村ランドスケープの良さを考えてみると、地形の起伏の襞（ひだ）に即した肌理（きめ）の細やかな土地利用や水管理がなされてきたこと、そして土地生産性からは一見無駄に見えるような余白地がそれらの境界部に多様に配されてきたことで、繁殖空間と生活空間と越冬空間が随所に存在していたことと言えるだろう」。

出典 | 大澤啓志「農村ランドスケープにおける両生類の特徴と農村計画」『農村計画学会誌』35 (4)、農村計画学会、2017 年、473-476 頁

3 地域の自然への人の働きかけについて

地域の自然への人の働きかけについて

「市域の先土器時代遺跡は、(中略)

北から一里山・本郷北浦・本郷前・鷹ノ巣前
(本郷前)・西ノ台・八幡根東・宮内・乙女北浦・
前畑遺跡などがあげられるが、
これらの多くは台地縁辺の小開析谷の
谷頭近くに立地しているのである」。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅲ 近現代』小山市、1987年、157頁

図 11 上記のうち、間々田地区には宮内（栗宮）、乙女北浦、前畑遺跡（南飯田）が位置。

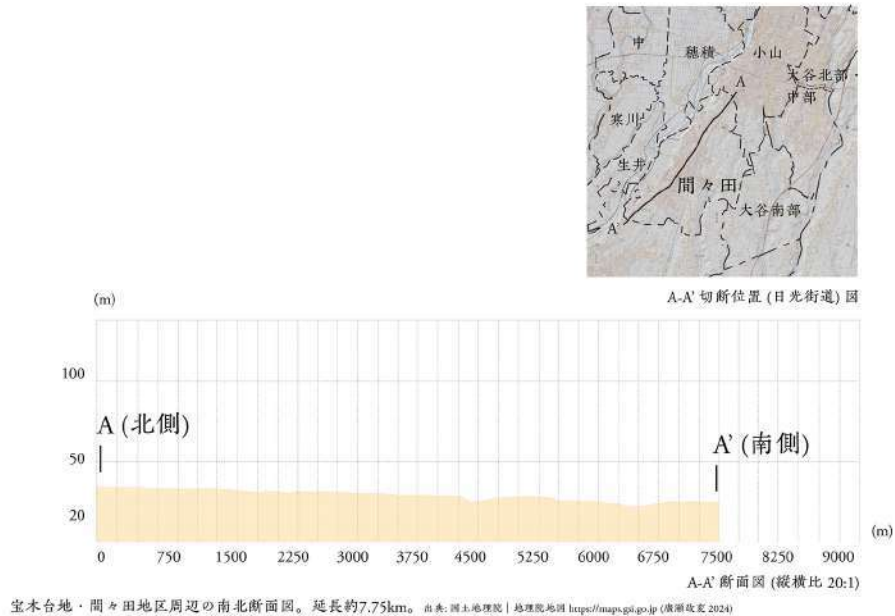
出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅰ 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、155頁



図 12 各時代の遺跡をオレンジ色で示す。宝木台地西側縁辺には連続的に遺跡が分布。

出典 | 国土地理院 | 地理院地図(廣瀬改変 2024)、「小山市内の遺跡分布」寺野東遺跡資料館展示パネル

II 踏査および文献調査による報告



「台地面は南にゆるく傾斜し」全域的に日照に恵まれます。

参照：小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、10頁

図 13 宝木台地・間々田地区周辺の南北断面図（延長約 7.75km。縦横比 20:1）。

出典 | 国土地理院 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> （廣瀬改変 2024）

小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、10 頁

地域の自然への人の働きかけについて

「低地帯を流れる巴波川流域には、(中略)
後期から晩期にかけての遺跡が一か所(中略)
これに対して思川水系は各期を通じて
遺跡数が多く、長期にわたって連続的に
営まれた遺跡も目につく。
縄文人にとって、最も住みよい条件が
あったのだろう」。

出典：小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、189-190頁

図 14 縄文時代の「小山市域における遺跡群のあり方が、川筋ごとに違うこと」について。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、189-190 頁

小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、10 頁

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



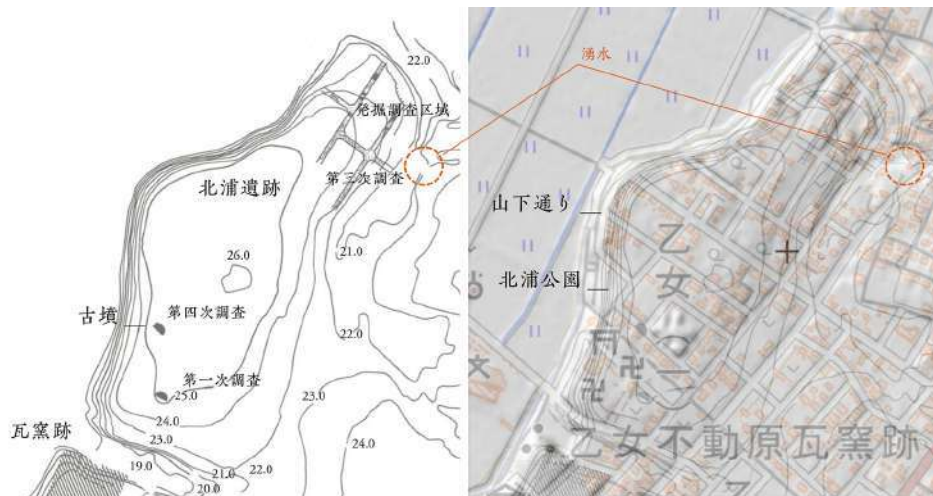
台地上から山下通りへ下ろされた階段を本文の参考に示す。乙女-間々田。2024/05/21

「北浦の台地に半定着的なムラを築いた(中略)彼らは、
台地の北西平坦面から斜面にかけて、集落の地を
定め(中略)北西斜面に思川に降りるみちを設けた。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅰ 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、206頁

図 15 乙女北浦遺跡のある宝木台地の上から思川低地に下りる今日の階段の例。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅰ 自然 原始・古代・中世』小山市、1984年、206頁



乙女不動原地形測量図(小山市教育委員会1996、廣瀬改定2024) 左図に現在の土地利用状況を重ねる。出典: 国土地理院 | 地形図地図

「また、北東斜面近くにも、彼らを使用した土器の
破片が散布していた。この土器散布地近くに湧水が
ある。彼らの飲水だったのであろう」。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅰ 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、206頁。左図出典: 栃木県小山市教育委員会『乙女不動原北浦遺跡発掘調査報告書』1979年、12頁

図 16 台地斜面、屋敷林、社寺林、河畔林などとして各所に平地林が残る。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅰ 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、206頁。

栃木県小山市教育委員会「乙女不動原北浦遺跡発掘調査報告書」1979年、12頁

地域の自然への人の働きかけについて

「彼らが住みついた場所は、
周囲に多種多様な食用動植物が
存在するところだった。
これらの食糧を獲得するために
人びとは四季をたくみにとらえていたと
思われる。(後略)」

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅰ 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、210頁

図 17 縄文人の生業に関する『小山市史』の記述より。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅰ 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、210頁

地域の自然への人の働きかけについて

「春には、ゼンマイ・ワラビなどの若草・
木の芽つみなど、
夏になると川を遡るマスや川魚をつかまえる
漁撈を、
そして秋は収穫が一番多い季節だった」。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅰ 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、210頁

図 18 縄文人の春と夏の食糧の確保に関する説明を引用する。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅰ 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、210頁

地域の自然への人の働きかけについて

「彼らは積極的に

ドングリ・クリ・クルミなどの木の実や
ヤマノイモ・クズ・ユリなどの根菜類の採集や、
川を遡ってくるサケを、捕獲したことであろう。
これら秋に取った木の実や、冬期に備え、
土中に掘り込んだ穴に貯蔵した」。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅰ 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、210頁

図 19 縄文人の秋の食糧の確保にかかわる生業について。

食料の保存としては、この他に「サケなどは、干したり、燻製にして保存されたことが想像される」。
出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅰ 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、210頁

地域の自然への人の働きかけについて

「シイの実はそのままで食用になるが、
クヌギ・トチなどはアク抜きした後に、
パンまたはクッキー状にして
食前に供するのである」。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅰ 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、210頁

図 20 木の実の加工について。トチの実は、今日も製菓原料とされている。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅰ 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、210頁

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



千駄塚古墳。千駄塚。2024/05/15

「『思川』東岸は、市内では最も遺跡が密集する(中略)市域のおよそ半数の古墳はこの地域に集中して分布する」。

出典: 栃木県小山市教育委員会「千駄塚浅間遺跡発掘調査報告書」1996年、7頁

図 20 千駄塚古墳全景。古墳の上には、浅間神社が祀られる。

出典 | 栃木県小山市教育委員会「千駄塚浅間遺跡発掘調査報告書」1996 年、7 頁



乙女不動原瓦窯跡。乙女。2024/05/22

「思川を遡れば、東岸の国分寺町には下野国分寺・国分尼寺が(中略)西岸の栃木市には下野国府が造営」乙女不動原瓦窯で製造した瓦は、下野薬師寺に。

出典: 栃木県小山市教育委員会「千駄塚浅間遺跡発掘調査報告書」1996年、7頁

図 21 乙女不動原瓦窯跡（国指定史跡。周辺は乙女かわらの里公園として整備）。

奈良時代の頃、日本三戒壇（戒壇は正式な僧になるための場）の一つ下野薬師寺に瓦を供給した。

出典 | 栃木県小山市教育委員会「千駄塚浅間遺跡発掘調査報告書」1996 年、7 頁

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



間々田八幡宮。間々田。2021/10/19

「本地域が下野国の古墳時代から古代にかけて
中心的存在であったことは容易に想定できる」。
間々田八幡宮は「天平年中（729-749）に勧請」と...

出典：栃木県小山市教育委員会「千駄塚浅間遺跡発掘調査報告書」1996年、7頁。北ふまい間々田推進協議会編・発行「ままだふるさとマップ」2013年

図 22 間々田八幡宮。

出典 | 栃木県小山市教育委員会「千駄塚浅間遺跡発掘調査報告書」1996 年、7 頁。
住みよい間々田推進協議会編・発行「ままだふるさとマップ」2013 年



安房神社参道（写真左）と同神社拝殿（同右）。栗宮。2024/05/22

「栗宮には、地名の起源と目される安房神社が鎮守
(中略) 安房神社は延長5年(927)の延喜式に、寒川郡
二座として」胸形神社と共に記載があります。

出典：菅間久男『小山市の地名由来と歴史』随想舎、2006年

図 23 安房神社参道（写真左）と同神社拝殿（同右）。

出典 | 菅間久男『小山市の地名由来と歴史』随想舎、2006 年

II 踏査および文献調査による報告



北浦公園。乙女。2024/05/21

間々田八幡公園東側の道路。間々田。2021/10/20

「(前略) 小山市立博物館の北側の思川東岸の
段丘上の西よりの部分(中略) 地元の人はこの道を
鎌倉道と呼んでいる」 「奥大道^{おくのだいどう}は、文治5年(1189)の
奥州征討の折に、奥大道を進撃した源頼朝が
戦勝祈願した間々田八幡宮の東側の道に出る」。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、509-510頁

図 24 北浦公園（写真左）と間々田八幡公園東側の道路（同右）。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、509-510頁



出典: 「日光道中絵図巻5 野木宿より小金井宿まで」国立公文書館デジタルアーカイブ <https://www.digital.archives.go.jp/img/L/1603304> CC0

「以後は、北進して(中略) 浅間神社のある千駄塚の
東側に出、(中略) 安房神社の西」へ。

「元和3年(1617)3月、徳川家康の死去にともない

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、509-510頁。小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 II 近世』小山市、1976年、256-257頁

図 25 「日光道中絵図巻5 野木宿より小金井宿まで」より。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、509-510頁。

小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 II 近世』小山市、1976年、256-257頁

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



出典:「日光道中絵図巻5 野木宿より小金井宿まで」

龍昌寺。間々田。2024/05/22

「日光に東照宮が建立されると、奥州街道は、
その参詣道として新たな性格を獲得することに」
「千住-宇都宮-今市間の20宿を日光街道(道中)、
白沢-白河間の10宿を奥州街道(道中)と
称するようになった」。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、509-510頁

図 26 「日光道中絵図巻5 野木宿より小金井宿まで」(図)と龍昌寺(写真)。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、509-510頁

龍昌寺と徳川家、日光東照宮の関係について書かれた文章が、「間々田のジャガマイタ調査報告書」に載る。参考に引用する。

「三代将軍徳川家光が慶安4年(1651)4月20日に亡くなると日光山に靈廟大猷院(れいびょうたいいゆういん)が建立される。その靈柩が日光山へ移る途中で龍昌寺が宿とされたことから、同寺境内には家光を祀る御霊屋が祀られた」。

出典 | 小山市教育委員会編「間々田のジャガマイタ調査報告書」2017年、9頁

また、同じく「間々田のジャガマイタ調査報告書」には、上の図26および次頁の図27にも関連する日光街道と思川水運の関係にかかわる記述があり、これも引用する。

「日光道中は、元和3年(1617)4月17日に鎮座した日光東照宮と江戸日本橋を結ぶ、五街道と呼ばれた幹線道路の一つである。間々田宿、すなわち近世間々田の市街地は、現在の間々田1丁目から5丁目にほぼ相当する。ここは、寛永年間(1624～1644)以降に日光東照宮の建築資材を陸揚げし、また宇都宮藩領の年貢米を津出しした網戸河岸や乙女河岸に近く、交通の要衝であった」。

出典 | 小山市教育委員会編「間々田のジャガマイタ調査報告書」2017年、9頁。

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



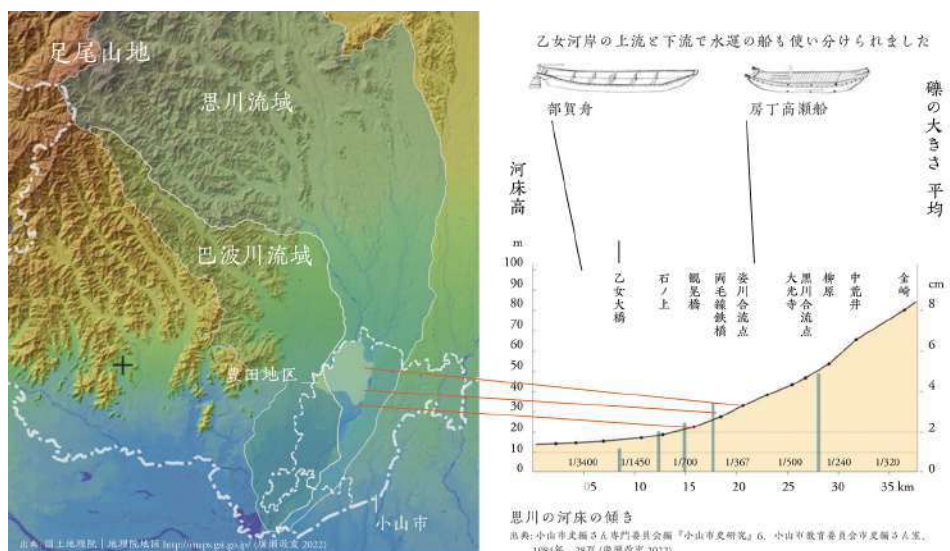
思川の旧河道と乙女河岸の位置を確認する。出典：国土地理院 | 地理院地図

「乙女河岸は思川の下流に位置しており、
文化8年（1811）の記録によると（中略）関ヶ原の役の
前史にあたる慶長5年（1600）には、上杉景勝の
会津拳兵にさいして（中略）徳川家康・秀忠が、
軍勢のほかを（中略）陸揚げした河岸として（後略）」

出典：小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅱ 近世』小山市、1976年、311頁。

図 27 乙女河岸跡（写真）と同河岸の位置および周辺地形（地図）。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 II 近世』小山市、1976年、311頁。国土地理院 | 地理院地図



思川・巴波川流域と地形、小山市および豊田地区の位置の関係

思川は「流域の半分が山地で、山地から急に平地に移」り、乙女大橋から河底は緩やかに。

出典：小山町史編さん専門委員会編『小山町史 通史編Ⅰ自然 原始・古代 中世』小山町，1984年，14-19頁。国土地理院 | 地理院地図 <https://maps.gsi.go.jp> (閲覧改定：2022)

図 28 思川流域と地形 (図左)、思川の河床の傾きの変化と船の使い分け (図右)。

出典 | 小山市史編さん専門委員会編『小山市史研究』6、小山市教育委員会市史編さん室、1984年、28頁（廣瀬改変 2022）。

小山市史編さん専門委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、14-19頁

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



日光街道 (国道4号) と小山市立車屋美術館 (乙女河岸で肥料問屋を営み、当地に移転した小川家の建物を利用)。乙女。2024/05/21

「元和2年 (1616) から翌3年にかけて、日光に東照社
(正保2年以降は東照宮) の造営が行われると、乙女河岸は
(中略) 普請材木を陸揚げする河岸として使用され」
「材木は (中略) 小山から壬生通りを経由して日光へ」

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 II 近世』小山市、1976年、311頁

図 29 日光街道 (国道 4 号) と小山市立車屋美術館。

車屋美術館は、乙女河岸で肥料問屋を営み、当地に移転した小川家の敷地と建物を利用して開館した。
出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 II 近世』小山市、1976 年、311 頁



小川家住宅。小山市立車屋美術館。毛利秀之撮影 (同美術館発行の写真絵葉書より転載)

主屋等5棟が国の登録有形文化財である小川家住宅。

図 30 小川家住宅。小山市立車屋美術館。

出典 | 毛利秀之撮影 (同美術館発行の写真絵葉書より転載)

II 踏査および文献調査による報告



西堀酒造。栗宮。2024/05/22。「渡良瀬水系（中略）に則した酒造りを行ってまいりました」とウェブサイトに記載。参照：栃木県の河川流域図

「小葉の柏瀬善三郎は（中略）真岡の辻善兵衛家（堺家）につとめていたが、万延元年（1860）3月に小葉で酒造を（中略）小山市域における本格的な酒造のはじめと」
 「明治5年（1872）9月、この柏瀬家から滋賀県蒲生郡朝日野村出身の西堀三左衛門が栗宮に出店した」。

出典：小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、622頁。国土地理院「地理院地図」<https://maps.gis.go.jp/>、河友社地形地図 <https://www.gisdata.net/>（閲覧済2020）

図 31 西堀酒造。「渡良瀬水系（中略）に則した酒造りを」とウェブサイト。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、622頁



西堀酒造西側のシラカシの木立。栗宮。2024/05/22

ケヤキを庇陰樹に用いた山居倉庫。山形県酒田市。2007/10/24

「山居倉庫は山形県酒田市山居町に所在し、（中略）倉庫の西側（中略）に、季節風や日除けのためとして明治時代に植樹されたケヤキが繁る」。
 西堀酒造西側には、シラカシが植えられます。

出典：平山育男「山居倉庫 倉庫の明治時代における沿革と使用される釘について」『日本建築学会計画系論文集』86(779)、2021年、269-275頁

図 32 西堀酒造西側のシラカシ垣（写真左）とケヤキを庇陰樹とした山居倉庫（同右）。

出典 | 平山育男「山居倉庫 倉庫の明治時代における沿革と使用される釘について」『日本建築学会計画系論文集』86(779)、2021年、269-275頁

II 踏査および文献調査による報告



集落東側から西方向、正八幡宮や西黒田集落センターとさらに西側の南北に連続する平地林を望む。西黒田。2024/05/15

享保改革での奨励により市内で開発された新田に東・西黒田新田があります。中世に士豪黒田氏が館を構え、小山氏の没落後荒廃して黒田林と称し、元禄4年(1691)頃、18名が林番として入植したと…。

出典：小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 II 近世』小山市、1976年、335頁。享保改革は、享保元年(1716)に始まり、少なくとも同21年(1736)までは続けられたと考えられる。

図 33 東黒田と西黒田は、近世の新田開発をその起こりとする。

享保改革は、享保元年(1716)に始まり、少なくとも同21年(1736)までは続けられたと考えられる。
出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 II 近世』小山市、1976年、335頁



西黒田から東黒田を望む。西黒田。2021/10/05

天明期(1781-88)の連年の凶作から、関東農村の荒廃は進みます。東黒田新田では、他国からの入百姓の引き入れを代官所に出願し、文政11年(1828)には集落の八割弱が入百姓で占められたとの記録が。

出典：小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 II 近世』小山市、1976年、398-399、406-407頁

図 34 凶作の後、国内各地で行われた入百姓の引き入れは、東黒田でも見られた。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 II 近世』小山市、1976年、398-399、406-407頁

地域の自然への人の働きかけについて

「こうして引き入れられた入百姓に対しては、各種拝借手当金の下付のほか、あとあとまで移住先に居付くことができるよう、たびたび代官所の役人が廻村見分するとともに、村民に対しては、村内居付百姓と分け隔てないよう村役人を始め重立った百姓はよく心付け世話をし、耕地を割り渡すさいも（後略）」

出典：小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅱ 近世』小山市、1976年、406-407頁

図 35 入百姓は、手厚く処遇されたと記録にある。

参照 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅱ 近世』小山市、1976年、406-407頁



明治20年代の小山宿。出典：小山市史編さん委員会編『小山市史 民俗編』小山市、1976年、21頁

「近世後期から幕末期にかけて、この東・西黒田新田のように宿町に向けて野菜類を売り込む村々がしだいに増加（中略）安政5年（1858）3月、（中略）争いが」「近郷・近在から多量の野菜類を消費していた事実から小山宿の発展のようすをうかがうことが」

出典：小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅱ 近世』小山市、1976年、311頁

図 36 東・西黒田などの村々と宿場の関係の一端がわかる文献の一節を引用した。

参照 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 民俗編』小山市、1976年、21頁

小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅱ 近世』小山市、1976年、311頁

II 踏査および文献調査による報告



浅草通り。間々田駅前土地区画整理事業地。乙女。2024/05/16

「間々田地区の区画整理事業は、
昭和32年から同44年に間々田駅前、
同45年から51年に間々田駅東、
同49年から54年に乙女の土地区画整理事業が実施」

出典：小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、1013頁

図 37 浅草通り。間々田駅前土地区画整理事業地。

参照 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、1013頁



間々田地区南部。1947/10/27 出典：国土地理院 | 地図・空中写真閲覧サービス

同。2022/03/11撮影。土地区画整理事業範囲(概略)を重ねる

「畑地・山林が住宅地になり、公園も設置された」
土地区画整理事業は、写真右の6箇所の点線範囲で。

出典：小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、1013頁。小山市「土地区画整理事業位置図」 https://www.city.oyama.tochigi.jp/data/doc/1709871675_doc_117_0.pdf (2024-07-30 参照)

図 38 間々田地区南部の空中写真。1947年（左）と2022年（右）

参照 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、1013頁。小山市「土地区画整理事業位置図」 https://www.city.oyama.tochigi.jp/data/doc/1709871675_doc_117_0.pdf (2024-07-30 参照)

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



間々田東小学校(右奥)と同校自然観察林(左)。南飯田

「間々田東小自然観察林」。平和。2024/05/15

間々田東小学校の自然観察林は、貴重な事例です。
林の植生はクヌギ-コナラ群集で、果樹園(クリ、ナシ)、
畑地と道を挟んで接し、その先に水田があり、
自然の樹林-草地-水辺の接続に近い生態環境が。

図 39 間々田東小学校と同校自然観察林

いわゆる「学校林」の面積が広い地域は、東北、中部、九州地方であるという。ただし、学校との距離が 1km 以上の遠隔地である場合が、全体の 72%を占め、「間々田東小自然観察林」のように 1km/徒歩 20 分以内の例は、7%となる。学校林の当初設置目的としては、学校の基本財産、建築・燃料資材としての利用が 53%を占めていた。しかし、近年は、「自然観察・体験等」を目的とした学校林設置数の割合が微増している。

参照 | 国土緑化推進機構「学校林現況調査(令和 3 年調査)」2022 年、6、8、12 頁

<https://www.green.or.jp/archives//media-download/342/00dded331d00d23a/PDF/> (2025-01-06 参照)

次に、学校林の教育の場としての価値にふれた文献から引用をする。「環境教育にとって、その基盤となる『環境を科学的に理解する態度』の育成こそが重要であり、そのためには野外科学の確固とした基礎の確立が必要である」。「都市域では、山間地域のように学校林をはじめとする教材化しうる森林に非常に乏しい。しかし、平地林・社寺林をはじめとして、小面積で分散してはいるが、まだ自然観察に利用できる程度の森林は数多く残されている。自然観察学習は、これらの森林を活用して、小学校ではナチュラル・ヒストリーを中心とし、中学校では近代的な野外科学を背景において展開されるべきである」

参照 | 池 俊介「森林における自然観察学習の展開」『新地理』35(3)、1987 年、1-9 頁

4 地域と人々の心身の結びつき



平和との境に当たる箇所^{こうじん}に建つ庚申塔。南飯田。2024/05/15

三尸の虫^{さんし}(アマノジャク)を踏みつける青面金剛(石塔)。同左

「庚申^{こうじん}信仰は、中国から伝来した道教にみなもとを」
「三尸^{さんし}の虫が人間の睡眠中に天にのぼり、天帝にその
人の罪を告げるので、命を縮められてしまう」
そうならないよう青面金剛^{しょうめんこんどう}に願うのが主流になり、
やがて「農作業を助けてくださる神様」^{さくがみ}「作神」に

出典：小山守蔵さん委員会編『小山市史 民俗編』小山市、1976年、490-495頁

図 40 南飯田の庚申塔。平和との境に当たる箇所で、道路中央部に残される。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 民俗編』小山市、1976 年、490-495 頁



間々田八幡宮二の鳥居での蛇寄せ。長者町蛇体。間々田。2024/05/05

間々田のジャガマイタの由来については、大蛇が
毎年同じ日に同じ土蔵の周りを三回回ったこと、
龍昌寺住職が雨乞いと疫病よけを行ったこと、
八大龍王信仰に基づくとするなど、複数の説が。

出典：小山守蔵・発行『間々田のジャガマイタ調査報告書』、2018年、13-14頁。間々田のジャガマイタは2019年、国重要無形民俗文化財に登録された

図 41 間々田のジャガマイタ。2019 年、国重要無形民俗文化財に登録された。

参照 | 小山市編・発行「間々田のジャガマイタ調査報告書」、2018 年、13-14 頁

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



間々田八幡宮二の鳥居での蛇寄せ。間々田一丁目蛇体。



弁天池での水呑みの儀。間々田二丁目蛇体。間々田。2024/05/05

「宿の西側には竹林が (中略) 冬に北西から吹きおろす寒風をしのぐために造成されたものであろう。竹は (中略) 蛇の体や頭部に欠くことの資材である。その胴体を飾るシダは (中略) かつては宅地内で採取」

出典：小山守編・発行「間々田のジャガマイタ調査報告書」、2018年、9頁

図 42 蛇体は、かつて地区の防風垣とされた竹林の竹などを資材として作られた。

参照 | 小山守編・発行「間々田のジャガマイタ調査報告書」、2018 年、9 頁



シダ栽培地 (間々田四丁目分)。間々田。2024/08/01



間々田四丁目公民館外構で栽培されるクサソテツ。2024/05/21

「シダ (コゴミ) は間々田八幡宮裏手の畑で栽培を (中略) 町内でも何軒か栽培している家が」 [間々田四丁目]
「蛇体につけるシダは (中略) 五丁目内の個人宅 (中略) 下生井地区や同市栗宮地区などで採取」 [間々田五丁目]
解体後、四丁目は畑で肥料にしてきた。五丁目は八幡宮裏に。「崖が崩れにくくなるともいわれる」

出典：小山守編・発行「間々田のジャガマイタ調査報告書」、2018年、53、59、60、68頁

図 43 現在、資材の地区内調達に努める他、地区外、市外の協力も得て資材調達を行う。

解体した蛇体を八幡宮裏に置く例は、斜面の肩からの雨水による土砂流亡分を補充することに当たる。なお、文中のシダは標準和名クサソテツのことで、「コゴミ」はその新芽を指す (次頁・図 44 参照)。

参照 | 小山守編・発行「間々田のジャガマイタ調査報告書」、2018 年、53、59、60、68 頁

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



クサソテツの新芽、コゴミ。Apple2000 撮影、CC BY-SA 3.0



群生するクサソテツ。Qwert1234 - Qwert1234's file、CC BY-SA 4.0

「シダの採取にはルールがある。シダは、一株から放射状に伸びるので、その芯を必ず残して周囲の葉を切るよう」[間々田六丁目] ※昭和30年代以前はシダ、フジを主に他の草木も利用

出典：小山守編・発行「闘う国のビデオ・メタ調査報告書」、2018年、94頁。写真出典：Apple2000 <https://commons.wikimedia.org/wiki/index.php?curid=506473>、Qwert1234 <http://commons.wikimedia.org/wiki/index.php?curid=92453442>

図 44 解体した蛇体の処置だけでなく、資材の採取も持続可能な方法で行われてきた。

出典 | 小山市編・発行「間々田のジャガマイタ調査報告書」、2018年、94頁



「南飯田神田囃子」。南飯田神田囃子保存会が再興、継承



「アワガラ神輿の習俗」。安房神社秋の例大祭

2017年、わがまちげんき「ままだ」発掘事業で発行された「ままだ風物詩」には、戦中に消滅しかけて再興された南飯田神田囃子、安房神社の太々神楽、アワガラ神輿の習俗が。栗宮お囃子保存会による「風神祭り」も紹介。

写真出典：小山市「むすび百景」 https://www.city.osaka.lg.jp/sonka-haka/ri/si_haka/sona/101page00005.html 関ヶ田地区（2024-07-30撮影）、高美：わがまちゆきな「しまだ」発掘事業実行委員会編「しまだ風物詩」2017年

図 45 南飯田、栗宮では、それぞれの祭礼文化が継承、再興されてきた。

出典 | わがまちげんき「ままだ」発掘事業実行委員会編「ままだ風物詩」2017年

5 景観から読みとれるその他のこと



牧ノ内2号公園。千駄塚。2024/05/22

九八幡 (きゅうはちまふ) 公園。西黒田。2021/10/05 東道上3号公園。栗宮。2024/05/22

「間々田には子供を遊ばせる場所がない」「ボール遊びできる公園が少ない」。写真は、街区公園 (誘致距離250m、面積0.25ha標準) に準じた小規模公園の例です。上の意見の対象外かとも思いますが、「街区に居住する者の利用」に適し、手近な暑熱避難となるかなど、これらのあり方からまず見直す必要も…。

出典:「小山市間々田地区風土性調査 アンケート調査集計結果報告」小山市、2024年、26頁。「都立公園法施行規則(第4版)」国土交通省、2018年、6頁

図 46 地区内の小規模公園の例。

出典 | 小山市「小山市間々田地区風土性調査 アンケート調査集計結果報告」2024 年、26 頁



こどもひろば・恐竜の森。乙女(磯の宮)。2024/05/16

こどもひろばの南側延長部分。木彫、木製遊具はない。同左

磯之宮公民館敷地西縁の道を南へ進むと

「こどもひろば」があり、木彫や木製遊具が。敷地が集落の共有林なのか民有林なのかは未確認です。平地林の公園的利用の事例として。

図 47 平地林に恐竜や哺乳類などの木彫と木製遊具が多数寄贈された「こどもひろば」。

磯之宮公民館の壁面には、「ティラノサウルス案内板」と表示された木製看板も設置されている。

II 踏査および文献調査による報告



木陰にあるバス停留所「明野線前」。美しが丘。2024/05/21

延長約100mに及ぶ藤棚を擁した美しが丘公園。同左

全国の猛暑日の年間日数は、増加しています。
最近30年間（1994-2023）の日数（約2.9日）は、統計期間の
当初30年間（1910-1939）の日数（約0.8日）と比べて
約3.8倍に。直射日光の当たらない木陰は重要です。

出典：気象庁 | 大雨や猛暑日など（極端現象）のこれまでの変化 | [全国13地点] 日最高気温35℃以上（猛暑日）の年間日数 https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/extreme/extreme_p.html (2024-07-31 参照)

図 48 バス停留所の例と、暑熱から歩行者を守る公園施設。共に美しが丘で撮影。

出典 | 気象庁 | 大雨や猛暑日など（極端現象）のこれまでの変化 | [全国13地点] 日最高気温35℃以上（猛暑日）の年間日数 https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/extreme/extreme_p.html (2024-07-31 参照)



西館通り-乙女上町公園。乙女。2024/05/21

おさんみち公園に沿う歩道。東間々田

歩車共存道路。美しが丘。2024/05/15

途中から幅員が狭くなる路地。乙女

龍昌寺参道。間々田。2024/05/22

間々田八幡宮参道。間々田。2024/05/21

上段は区画整理による人間的な道づくりの例。
下段は宿場と門前の街区構成に由来する道で、元が
人間的な道。人と車の折り合いの検討を、改めて。

図 49 新旧の人間的な道づくり、人と車の折り合う街区づくりの成果が残る。

参照 | 小山市編・発行「間々田のジャガマイタ調査報告書」、2018年、6-16頁

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



多種の作物が育てられる台地の上の畑地。千駄塚。2024/05/22

技術革新が志向されるトマト生産施設。東黒田。2022/05/15

思川左岸の水田。乙女。2021/08/08

キャベツ、ナシ(道路左側)、麦類の圃場。南飯田。2024/05/15

市街化が進む中、遅れて開発された新田を含め、
諸問題に直面しつつも農業は継承、進展されます。

図 50 原始・古代に始まり、近世にも新田開発が行われた地域の多様な農業は、健在。

ただし、農業を取り巻く諸状況への農業者の危機意識は高く、これも多様に対応が工夫されている。



ナシの若い実。乙女(中妻)。2024/05/16

茨城県道・栃木県道54号明野間々田線沿道。間々田。2024/05/22

遺跡の集中を第一の理由として、
自然に則しつつ人の側からも働きかけて生きるのに
間々田地区は今もまだ向くと考えられます。
新しい都市と田園のあり方の探究に、期待します。

図 51 市街化区域近隣の市街化調整区域（左）と市街化調整区域近隣の市街化区域の例。

宿場を元とする旧街区を擁し、建物の高さが概ね人間的に抑えられた当地区の市街化区域の居住環境の質は、市街化調整区域と対立的ではない。双方の調和は、地区が目指すべき方向性に当たろう。

Ⅲ 簡易社会調査による報告

1 目的と実施概要

1-1 目的について

間々田地区で暮らす人々の生活や意識をできる限り実情に近いところで把握すること。特に、過去と現在の生業や生活の様子、地域をどのように認識しているか、間々田地区で暮らしながら、大切に守っていききたい地域の宝や、逆に解消したい困りごとなどについて、どのような考えを抱いているかなどについての把握を試みる。また、それらの関係性を読み解くことで、間々田地区および小山市域全体での田園環境都市おやまビジョンの手がかりを得ることを目的とする。

1-2 実施概要について

令和6年3月から6月にかけて、下記の2種類の簡易社会調査を行った。

- ①座談会形式のグループインタビュー
- ②無作為抽出による2,500世帯への
郵送によるアンケート

自治会への説明や広報周知は下記の通り。

- ・3月19日：自治会長の皆さまへ説明会を実施。（しらさぎ館にて）郵送によるアンケート調査の説明と、選択肢（案）についてのご意見を伺う。
- ・4月1日配布の広報おやま回覧時に：田園環境都市推進課より「風土性調査に入る」ことの説明と周知のチラシを回覧

1-3 座談会形式のグループインタビューについて

(1) 特に考慮したこと

アンケート調査では、本調査で立てた目的達成のためには、設問や提示する選択肢が、住民が「日頃考えていること」「伝えたいこと」「語りたいこと」に沿っているかどうかが重要になる。そこでグループインタビューを先行して行い、そこで語られたことをもとに、アンケートの質問における選択肢を設定することを基本としている。スケジュール的に一部のインタビューがアンケート作成には反映されない場合もあり、自治会長を対象とした説明会において、地区での困りごとや大切に守りたいものなどについてご意見を聞かせていただいた。

(2) 実施時期と対象者について

次の3つのグループで実施した。

①自治会長の皆様：3月26日

4月で役員改選となるため、より地域のことを把握されている改選前の自治会長の方々のお話を伺うため、R5年度のうちに実施した。自治会連合会間々田支部の支部長、副支部長、会計、理事（2名）の計5名の方に参加していただいた。

②農業従事者の皆様：3月28日

新年度4月に入ると田植えの準備などで農繁期に入ることから3月のうちに設定し、法人・個人、また、農業委員などの方々に依頼し、当日は5名の方に参加していただいた。

③子育て世代の皆様：5月10日

間々田地区、乙女地区から育成会役員の方々など5名の方にご参加いただいた。

(3) 全ての聞き取りにおいて、共通の質問内容

①自己紹介として～間々田地区とのご縁、仕事や地域での活動、生活圏について

②地区の昔と今。変わったこと変わらないこと

③地区で暮らすなかで感じる、解消したい困り事

④地区の大切に守り、未来につなぎたいもの

⑤都市部と田園部は、これからどんな関係を築いていくと良いか等、これからの小山市のまちづくりへの意見

以上に加えて、それぞれのグループの特性に即した質問(子どもたちの帰宅後や休日の過ごし方、農業の今と昔、など)を加えて聞き取りを行った。

1-4 アンケート調査について

(1) アンケート調査

実施方法 1

- ・無作為抽出により 2,500 名を対象に郵送で実施。
- ・4 月 25 日に発送し、6 月 1 日を締切とした。

実施方法 2

- ・紙の調査票の郵送と並行して、対象世帯以外でも回答をいただける場合の受け皿として、回覧チラシで告知を行い、インターネット(グーグルフォーム)での調査も実施し、10 月 15 日を締切とした。
- ・郵送の対象世帯でもアンケートに回答した方以外の家族も回答いただける場合の受け皿としても想定し、郵送に際し二次元コードを記載した依頼書も同封した。

回答数

- ・回答総数：659 件
 - 郵送による回答：571
 - インターネット回答：88
- ・郵送での回収率 22.9% 2,493 母数 2,493(宛先不明の戻り 7 通を除く)
- ・集計有効数：654 件
 - 締め切りを大幅に過ぎて届いた等の 5 件を除外

集計結果を、「小山市間々田地区アンケート調査集計結果報告書」にまとめ別添資料とした。

2 結果整理の手法について

グループインタビューにおいては、下記の 3 種の記録を作成し、③を本報告書に掲載している。

①書き起こしデータの作成

②個人情報を残した形で、座談会の時系列に発言内容をまとめたもの

③個人情報を抜き、発言内容を、時系列ではなく、いくつかのテーマやトピックごとに編集した記録。発言内容に関連した史実や、少し曖昧な記憶に基づく参加者の話を裏付ける記録などを、脚註の形で、各種文献から転載し補足する。

アンケート調査については、単純集計と、主要な質問において属性との相関をみるクロス集計を行った。概要版を次章の調査結果に掲載し、全データは、別添資料(アンケート調査集計結果報告書)に掲載する。

グループインタビューと、アンケートの結果については、個々の検証に加えて、得られた情報の関連性などを読み解き、ビジョン策定に向けた報告会やワークショップなどの基礎資料として活用していく。

3 各調査の結果報告

3-1 グループインタビューの記録

この章ではグループインタビューで行った聞き取りの成果を、開催順に掲載する。初めに、語られたことを概観するために各回記録の見出し一覧を掲載し、次に各調査で語られた内容を掲載する。

1 | 自治会のリーダーの方々

- 1 : 参加者の方々の地域との関わりや、各地域で顕著になってきた諸問題
- 2 : 昔と今、環境や地域コミュニティの変化
 - ・ 互助の喪失 ・ 高齢化
 - ・ 平地林の開発 ・ 商店街の衰退
- 3 : 地区の困りごと
 - ・ ゴミ収集に関する問題
 - ・ 遊休農地・空き地・空き家の問題
 - ・ 動物による被害
- 4 : 間々田地区で大切に守りたいこと
 - ・ 間々田八幡宮の蛇祭り
 - ・ 各地区のお囃子 ・ 奉納相撲
- 5 : 30 年後～未来の間々田地区・小山市
 - ・ 田園環境～水田を残していくこと
 - ・ 子どもや若い人が参加できる地域の催事を
 - ・ 人口減少に見合った開発
 - ・ 河川の有効活用

2 | 農業従事者の方々

- 1 : 参加者の農業経営や地域との関わり
- 2 : 間々田の農産物について
 - ・ 梨 ・ キュウリとトマト ・ 米麦
- 3 : 耕作放棄地と集約化について
 - ・ 農地の貸し借り

- ・ 所有者不在の農地
- ・ 増加傾向にある耕作放棄地
- ・ 集約化の問題

4 : 30 年後～未来の間々田地区

- ・ 組織化の課題
- ・ 生き物調査とホタル

3 | 子育て世代の方々

- 1 : 参加者の方々の地区との関わり
- 2 : 子どもの頃からの間々田地区の変化
 - ・ 自然が減り家が増えた
 - ・ 遊ぶ環境の変化
- 3 : コロナ後の育成会の活動について
 - ・ 育成会の変化、子どもたちの変化
 - ・ 連合会の活動
 - ・ 続けるモチベーション
- 4 : 間々田地区の困りごと
 - ・ 小中学校の規模や通学環境など
 - ・ 就学前の居場所が無い
 - ・ 予約が取れない小児科
 - ・ 道路状況の不具合
- 5 : 間々田地区で大切に守りたいこと
 - ・ 間々田紐 ・ お囃子
 - ・ 蛇祭り/じゃがまいた
 - ・ 商店街に新しい循環を生みたい

1 | 自治会リーダーの方々

参加者：自治会連合会間々田支部の支部長、副支部長、会計、理事（2名）の計5名

実施：2024年3月26日 18時～19時30分

場所：間々田市民交流センター（しらさぎ館）

1：参加者の方々の地域との関わりや、各地域で顕著になってきた諸問題

●間々田

◎長野県で生まれて東京で就職し、小山市へ。現役時代は頻繁に東京へ行き来して忙しかったが、退職後に自治会長を務め、ようやく地域のことがわかってきた。今は、仕事は引退し自治会連合会の役の他に、「じゃがまいた保存会」に所属して活動。

◎買物は主に間々田で。時間がある時は、市内の他地区の店にも出かける。

◎間々田地区の長老さんたち、もう亡くなった方も何人か・・・そういう方から間々田地区の風習とかしきたりとか制度とか、いろいろなものを教わってきた。

◎でも、時代は変遷しているので、やっぱりその新しい年に合わせて、全て合わせるわけにはいかないが、できるだけ時代の変化に合わせていかないと、若い方がついてこないということが言えると思う。

◎私の地区では、自分の印象では若い人々の移住が微増していると感じている。自ら家とか土地を買って、またはマンション・アパートに入る若い方が、ここ1、2年で、若干増えているのではないかと。それに伴う、学校にあがる前の小さいお子さんがいる家庭が自治会に入りたいんですと、挨拶に来てくれたりしている。そう極端に人口が減るようなことはないのではないと思う。他の地区はわからないが。

◎会としては継続できていないが「自然の里 ままだ」という団体を作り、子どもたちが農業との関わりや自然環境の中で、体験してもらうイベント、例えば学校との連携で1、2年生、3、4年生と分けて、生き物や魚が、どんなものがあるとか一緒に調べたりしていた時期もある。今は農業従事者の方たちを中心に土地改良区で継続してくれていると思うが・・・。

◎間々田地区については、できるだけ子どもさんとなんとか関わりを持ちたいなと思うが、コロナ以降、学校行事に自治会長の招待がほとんどなく、こちらも配慮してほとんど学校へは顔を出していない状況。大谷とか桑などでは、自治会長さんも学校の行事にはコロナが終わってから参加しているようだが、いまだに間々田地区は学校行事には参加ご遠慮くださいという案内がきており、学校の情報をなかなかつかめないという状況がある。

●乙女・下川岸

◎乙女地区で生まれ育ち、大学進学で東京へ。その後、古河市の企業に就職。同時に、父に言われて自治会にも入会した。企業を辞めた後、自分で起業もしたが、そちらは少しお休みして、今はシルバー人材センターに植木剪定の事業者として登録。

◎市内各所をまわりながら、やはり、小山は広いと感じるようになった。市内のさまざまな様子に興味を持つようになった。

◎距離的にも近いので、古河が普段の生活圏になっている。

●東黒田

◎自治会の他に、老人会で神社境内の清掃活動を行ったり、農地水の事業（農地・水保全管理支払交付金）で花を植えたりしている。地域のサークルでは、グラウンドゴルフ部に所属し大会に出場している。

◎買物は、間々田にドラッグストアもいくつかあり、だいたい地元ですむ。時々小山イオンに

も行く。

◎地区の昔と今の変化については、コロナまでは、地元の神社の氏子総代さんが、奉納花火大会をずっと昔からやっていたが、コロナの感染拡大で中止になり、いざ今度はやろうという機運がなかなか盛り上がらなかった。

◎その代わり、自分が自治会長1年目の年に、「音頭取って、収穫祭なるものをやっては？」という声があり、昨年11月に初めて地区の収穫祭というものを開催した。

◎内容的には、ボランティアの形で芋煮を作り、無料で振る舞う、地元の手打ちそばの名人に150食用意してもらって、子どもたちには無料で食べさせて、あとは300円の料金を頂いて食べてもらうことなど。

◎今年度は、育成会の新しい会長と、なんとか子どもたちに思い出を作りたい、人を集めたいということで、一緒に企画をスタートさせる予定になっている。

●乙女・楓山

◎生まれも育ちも乙女地区の楓山（もみじやま）。実家は、小規模の農家で今は水稻栽培だけを続ける。10年前にアパートを建てて経営。

◎ふだんの生活圏は、地元の商店などが中心。ただ、地元にも電気屋さんはあるが、冷蔵庫やクーラーを買うということになると種類が多い、小山地区の量販店に行ってしまう。

◎スーパーやドラッグストアは増えたので、古河なり小山なりに足を伸ばさずにすむので、昔からすると便利になっていると思う。

◎楓山と、周辺の平和（ひらわ）、南飯田など5つの自治会が共同で、県や市からも助成を受けて「駅東口祭り」を10回行ってきたが、コロナ禍になってここ5年は中止している。一回やめてしまうと、コロナが収まっても、いざ始めよう！と声を上げて動く人でもないかと、再開するのはなかなかできない。イベントを続けるということはなかなか大変。

◎乙女八幡宮では、江戸時代からと聞いているが、奉納相撲が行われてきた歴史がある。江戸時代には力士が来たという。一時中止し、昭和の時代に子ども相撲として復活した。

◎それを引き継いで、平成31年、令和元年、その年にやろうということで企画をして、開会式をやったものの大雨で中止。それで5年ぶりに令和5年度に開催した。やはりいったんやめてしまっていたもので、「昨年度はこうやったんだ」という話も思うような話が聞けなかったので、大変な思いはしたが、何とか開催できた。今年度もやっていこうという声は上がっており、やっていきたいと考えている。

◎蛇まつりも間々田八幡宮開催の組織とはまた別に、各自治会でずっとやっていた。やはり令和元年度から中止になってしまっているということで、令和6年度は開催どうするかということで、育成会さんと相談をしている状態（グループインタビュー開催の令和6年3月時点）。

◎地区でも住宅の開発が進み、人口が多少なりとも増える状況にある。農地、林に開発が進み、このところ、毎年のように、数十戸の増加が見られるという感じになっている。今、造成しているところの他に、また次、38戸の工事になりますという話も来ている。

◎全体的にバランスよく人口が増えればいいが農地、山林を開発ということなので、偏った人口の密集という感じになってしまうと、その辺りで自治会長をやる人は大変だと思う。

◎楓山の老人会「もみじ会」は、盛んにサークル活動が催される。サロン形式の「あいあいサロン」は、予定を立てず好きな時に好きなことをするもので、カラオケや手芸、将棋などが行われる。会員は50人近くいて、男女半々である。普通は女性の参加が多くなりがちなので、貴重なことと思う。今後、歳をとっていくにあたり、そういうちょっとした遊びを兼ねての生きがいはある地区だと思う。

●間々田5丁目自治会

◎間々田八幡公園は、改修の完成が目前だが、周囲の道路は狭いまま。要望をしているが、住宅が多いので、拡幅が今のところ難しい。八幡宮へのお客さんも増えているので、注意を喚起する看板を設置するなどの対応をしている。

◎市役所勤務で、産業、経済、観光などを担当し、在職中に国の補助も受けて国道4号の歩道を整備した。街路樹のトチノキが大きく育ち、一時期はこの通りの区間が評判になった。

◎定年を待たずに退職し、市議を2期務め、並行して自治会長にも。お世話になってきた地域にお返しをしたいという思いがある。

◎普段の生活圏というのは、小山環状線、野木小山環状線ができたことによって、小山の市内に行くのではなくて、郊外の店舗に出かけることが多くなった。野木も道路もよくなってスーパーも増えているので、かなり利用している。道路一つで、だいぶ人の流れが変わってくるということを実感している。

◎残念なことに間々田の町内の昔からの商店街はだいぶ廃れてしまった。自分が若い時に担当した事業で、間々田商店街に、国からの補助をもらって4号線に歩道をつけた時は、地域もとても盛り上がったことを覚えている。

◎当時は、店の前に車をとめて買い物ができる時代。今の時代だと、なかなかそうはいかない。駐車場が無いと・・・。

◎小さい孫がいるので、間々田、小山に子どもが遊べる施設が無いと実感している。昔は小山ゆうえんちというのがあったが。孫は真岡に住んでいて、真岡はアスレチックやプールなどが充実して整っているから、どうしても真岡に行ってしまう。

2：昔と今、環境や地域コミュニティの変化

互助の喪失

◎各自治会、各地区に単位自治会があり、大きいところは300、400。1000近いところもある。その単位自治会の中で、以前は、皆さんの意見がだいたい同じになるが、最近は、特にコロナ以降、昔からの人の意見と新しい住民の人たちの考え方というのが、違ってきている。

◎例えば、各自治会や各地区でイベントとか催し物をやる。ボランティアで担当者たちが一生懸命準備しても、それに参加してくれる人は、昔からいた人か、または高齢者。若い人は来ないの。考え方が違うので。そんな地区のイベントに行くより他に行った方が良いという考え。

◎住みよい間々田推進協議会という組織があり、4月14日に公民館で「ふるさとまつり」をやる。毎年、年に1回やっているお祭り。そこへ来る参加の人たちを見ていると、やはり変化がある。昔、コロナ前は家族全員でたくさんきてくれた。今は高齢者の方がほとんど。コロナの中、いったんイベントを中止した関係もあるのだろうが、考え方が、がらっと変わってきたように思う。

◎地域の助け合いについても変化があると感じている。先日、震度4程度の地震があり、一応念のために地域を回ったが、外へ出て隣近所を気にしているのは、若い人はいなくてお年寄りばかり。若い人は家にいる時間ではなかったのかもしれないが。

◎地域の人には、いざという時には、まず、自分の命を守って、それから小さなところでの互助、助け合いをしましょう、というしかないですね。その後が公助になる。(記録者註：まず互助があり、それが自助にもなるという考え方がなくなった?)

高齢化

◎企業などの定年が延び、退職して自治会活動の新人となる人々の年齢が65~70歳になった。活発に動くにはやや遅いし、そもそも億劫だからと自治会活動に積極的にかかわらないことも増えていないか。

◎楓山は全460戸で、75歳以上の人が350人。最高齢は103歳。高齢者が多く、敬老会ができなくなった。補助金が減り、自治会の持ち出しが増えて、記念品を配るだけで座談会が開けなくなった。コロナ禍もあって、高齢者が、「1年ぶりだね」などと横の連絡を保てる機会が失われた。

◎高齢者の見守り活動をする方々の多くが、80代になった。

◎高齢者の位置づけが、公的な支給などでも、以前は65歳からだったが、今は70とか75にだんだん上がっていて、老人の位置づけが何歳からかが分からなくなってきている。

平地林の開発

◎環境面での大きな変化は、平地林がどんどん車置き場になったこと。事業者が平地林を買って皆伐し、車を購入して分解し、海外へ送る。それがどんどん広がった。地権者は現金を出されて喜んで売っているが、今はよくてもいずれ車を置いて逃げられるようなことはないのか。

◎道路ができてから、そのようなことが進み、平地林がどんどんなくなった。

◎五料あたりも、区画整理（小山栃木都市計画事業栗宮新都心第一土地区画整理事業）で広範囲に平地林がなくなった。

◎笑い話だが、平地林がなくなってイノシシも痩せたということを言っている人もいた。

商店街の衰退

◎間々田商店街も店を閉めたところばかりで、商店街と言えなくなった。どの家もおじいさんとおばあさんが残り、子どもたちは周辺に出て家を持ち、勤めに出ている。店は誰も跡を継がない。おじいさんおばあさんがいなくなったら、あそこはどうなるのか、どうするのか。

◎商店街ができたばかりの頃は、あちらこちらから視察に来て、すごい反響だった。

◎昔は、店の前に車を停めて買い物ができるから、随分賑わった。

◎国道4号の歩道整備に際して植えたトチノキは大きく育って、こちらも相まって、良い環境だと評判になったが、店が閉まってきて、大きな葉っぱが落ちてきても、人がおらず管理ができなくなった。

◎昔の商店街は朝起きて水まいて、玄関掃除して歩道も掃除して、お客さんどうぞという習慣だったが、もう、そういう時代ではなくなったから。あの木を切ってくれという苦情が来て、やむなく伐採した。

◎間々田商店街が盛んなころは、乙女地区でも浅草通りの商店街が賑わっていた。

◎祭りでもいろいろ神輿を出したりなんかして、盛んだったが、間々田と同じように乙女の商店街も廃れてきてしまっていて、やはり今、本当に何店舗かになってしまった。

◎あれは車社会の影響だ。

◎車社会になって、人の流れも移動しちゃったということ。

◎広い駐車場が用意できる店舗に人が行く。

◎ロブレが駄目なのも駐車場問題だから。

◎うちの楓山にも、自分が子どものころは、店が15軒あった。だから、何不自由なく暮らせた。それを今は、うちの地区にあるのは酒屋と居酒屋。それとはんこ屋さん。

◎生活に必要なものが買える店は、どこも近

所にあった。醤油だの砂糖だの。

◎間々田ばかりでなくて全国的に……。郊外型の店舗ができてしまってから変わった。

3：地区の困りごと

ゴミ収集に関する問題

◎うちの場合はなんといってもゴミの問題。自治会に入っていない方が市に相談すると「ゴミは捨てられます、自治会に相談してみてください」という話になる。自治会とすれば会員以外の人もゴミ収集場を使ってもらうのはいろいろあって難しい。きちんとやっているところもあるが、ルールやマナーを守らない人も。

◎指定ゴミ袋というのを来年度から導入（グループインタビュー実施・R6年3月）するが、状況はあまり変わらないのではないかな。

◎カラスの問題もある。カラスが来て散らかしてしまったりする被害がある。ゴミの問題をなんとかしたいが、なかなか妙案がない。

◎市としてはゴミ袋を有料化して全体量を減らしたいというのが目的らしい。

◎ゴミ問題については、指針のようなものを行政指導で作ってもらいたい。ビジョンもいいけど、ゴミ問題は早急に、30年後でなくて、すぐやってもらいたい。

◎どこも自治会の加入率が減っていて、自治会に入らない人のゴミ出しについては、それぞれだと思うが、そこはどうしているか？

◎出すなどとは言えない。

◎自治会費とは別に、ごみ処分にかかる費用を払ってもらおう。そういうこともあるようだが、どうなんだろうかな。

◎うちの自治会は、自治会に加入していない世帯は、「最低限、順番で掃除の当番だけきちんとやってください」ということにしている。出すなどとは言えないが、掃除当番が回ってきたら掃除を必ずやってくださいというルール。

◎うちは今後、自治会会員以外はお金を取ろうかという話も出ている。

◎うちでは自治会会員以外は自分で処理してくださいという方針。自治会会員以外は、ゴミ出すならその経費の分だけお金を払って・・・とすると、自治会に入っていた人でも自治会費よりゴミ費用が安いなら、自治会をやめて、ゴミだけ、お金払って出すようになる可能性もある。

◎みんなそっちへ流れちゃうと、自治会が壊れてしまう……。

◎うちのほうも基本的にはやはり同じで、「収集所自体が自治会の管理になっていて、自治会費で集めたお金から費用として使っているの、利用できません」「小山市で回収はしますが、自治会費も使っているの、自治会としては出すことはお断りします」という話でやっているが、やはり年配者の方や一人暮らしの人は、ほかへ持っていきなさいと言っても持っていけない人もいるから、難しいところ。

◎若い人は、自治会費納めていない人でも、朝、ゴミを出していく。

◎分別やルールさえちゃんとしてくれればいいですよ、目をつぶりますよというのでやっているが……。

◎ちゃんと分別する人は、名前を書いたり班を書いたり分かるようにして出してくれる。違反ごみを出す人は、もうこれは確信犯。

◎東黒田は小山市認可の形で、民有地に5カ所のゴミステーションを建て、時間を決めて取りに来てもらう。自治会未入会者の方は、置くのであれば、収集車が来る時間に自ら持って行って引き渡す分にはこれは支障ないという考え。

◎世帯数がある程度少ないと、そういう管理ができる。400を超えてしまうとなかなか難しい

◎それとやはり黒田あたりだと、昔から住んでいる人が多いからルールも理解してくれている人多そうだな。

◎うちのほうは90%が他所から引っ越してきた

人たちだから・・・。

遊休農地・空き地・空き家の問題

◎それから、耕作しなくなった遊休農地、住宅地では、空き家。草ぼうぼうのところが目立ってきた。

◎空き家、空き地。これも問題だ。

◎空き地の荒れたところを何とかしたい、なんとかしてくれと行政に話をしたら、地主さん、持ち主がわからないと不法侵入になってしまうとのこと。

◎なかなか市も手を出せない。

◎まちづくりのほうで（協議会？）地主さんが分かる人に連絡して「そちらでできなければ、邪魔になるところだけはわれわれがやって処分しますから」と伝えて、今、まちづくりの会長が一生懸命やってくれているので、少しずつ解消している面もある。

◎うちの地区では、草ぼうぼうになってくると、自治会長のところに電話がくる。なんとかしてもらいたいって。

◎去年、私のところは環境課にお願いして、地権者に連絡して処分してもらった。

◎地権者が分かりさえすれば。

◎所有者がわからないと手が出せない。

◎これからどんどん増えてくる。大変だな。

動物による被害

◎イノシシに河川の堤防が荒らされる。遊歩道の一部が掘られている。大人のイノシシの成獣は、なかなかワナにかからない。そばまで行ってもグルグル回って、中に首を突っ込まない。

◎自治会内のまちづくりの会が仕掛けた檻で捕えたアライグマは殺処分されるが、タヌキは殺処分できないらしい。保護動物だからなのか。

◎ハクビシンの被害も受ける。空き家が増えると被害も増す。直径8 cm 程度のすき間から頭を入れられれば、そこに侵入できる。

◎同じ箇所にはばかり糞をするらしい。てんこ盛り。だから、天井裏でやられちゃうと、天井が腐って抜けたこともあった。

◎公民館に入られて屋根と天井を補修したことがある。

4：間々田地区で大切に守りたいこと

間々田八幡宮の蛇祭り

◎間々田の蛇祭り。これはもう何があっても守っていかなければならない。何年もかけてやっと国の認可がおりて、国の無形民俗文化財になった。

◎全国各地で、やはり何百年も続いている伝統芸能や祭りが少子化でだんだんできなくなっているというのはテレビなどで知ることができる。ここでもそういう心配があるが、伝承館ができたことによって少しは良い方向に行くといい。

◎蛇まつりは本来、われわれのときは男の子だけの参加だった。檀家がだんだん少なくなってきたので、担ぎ手も減り、女の子が入ってきた。

◎今はもう女性も入れないといけないし、元々は、その町内の人しか参加できなかったが、そうもいかなかった。外国人の人も参加したいと申し込みがあった人には参加してもらおう。よその町内さんもここへぜひ参加させてくださいと事前に話があれば参加させる。そういうような形にしないと人が集まらない。子どもさんはもうどこからきても優先。子どもさん優先の祭り。

◎あとの問題は、材料。

◎そう。藁とシダ。

◎県知事のところへ挨拶に行ったときに、竹もシダも作っておかなければという話になり、知事が、竹はうちの田舎へ行くといっぱいあるからそこから持っていけば良いと言っていたが、日光だから。

◎幸いに材料は、今のところはこの辺はいっぱいある。でも、だんだん少なくなっているのは事実。巻きつけるシダも山にほとんど生えなくなって

きているので。もっと大きくなるものを畑に植えて、栽培する試みもやっている。

◎胴体になる藁は、今は稲刈りのときにみんな細かく切断してしまうので、わざわざ長い状態で残すというのは、余分な時間と手間とかかってしまう。今は、農業も、田んぼを持っている人が自分で耕作するのではなく、頼んでしまっている人も多いので、余計に調達が難しくなっている。個人個人でやっているのではないから、みんな頼んでしまっている人が多いので、やはり藁の調達が一番難しくなっている。

◎昔は自治会単位で、農家の家へ行って、藁二束とか三束をもらっていた。それで結んで束にして……。昔はそれが楽しかったのだが。小山市や保存会で、なんでも一括でやるような感じにしていけないと、材料は続かなくなってしまうのではないか。

◎とにかく、藁、竹、シダ。これは今の農業の継続とも関わり、なくなっているもので、なんとかなくてはいけない。

◎今、平地林もなくなっているから。

◎蛇まつり自体も間々田のお祭りなので、間々田全域の絡みで盛り上げるというのも一つの案ではないか。

◎そういう提案が何年か前に出たが、地元の、子どもころからやってきて上がってきて、役になっている方たちからは反対の声があった。

◎何故ならば、一年かけて、勉強会をやりながら、竹はいつごろの竹がいいか、虫は食っていないか、それから始まって、今度は竹を割る、その割り方も決まりがあって、今度は編まなければいけない、そこにもテクニックがあって……。なかなか伝承や共有が難しい。

◎裾野を広げて、みんな一緒にやってというのは難しいかもしれない。

◎あとは各地域で予算を出してくれるなら話が進むかもしれないが。

◎間々田地区は昔から守りの地区で、ほかに教え

たりしない。今でもそうではないか。

小山市と合併したときに、なじめって言っても他となじまない。そういう傾向がまだ続いている。◎続いているよね。だから、うちは市街地区と農村部、川向こうがあって、一応、どこも間々田なのだが。

◎それぞれの伝統が、やはりお祭りがあるので、住んでいないところには、同じ間々田でもわれわれは関知できない。

◎できない、意外とね。

◎それもまた、ある意味では、いいって言えはいかれない。

◎直接お祭りに参加するにしても、参加というか手を出すんじゃなくて、観客として参加したり、何かを最初手掛けて、そのうちにもうちょっと関われるようになるとか、そういった形お互いに……。それから「間々田地区は乙女地区を手伝いますよ。うちのほうでも何かあるときにはそういう関係で間々田地区に知恵を貸してくれないですか」という、そういうつながりが必要なんだろうと思う。

◎そういうつながりは必要だと思う。ただ、間々田八幡宮へ来てもらわなければいけないから、まずは大変かもしれない。公園がとてもきれいになって、今後は使い勝手が非常によくなるのではないかなと思う。

各地区のお囃子

◎昔は各地区にお囃子もあったらしいが、だいぶなくなってしまった。

◎神輿もなくなっている。

◎お囃子は、南飯田にはある。

◎小山市全体では、お囃子は七つくらいしか残っていないのでは？ もっとある？

小山市HP「小山郷土芸能おはやし振興会」

<https://www.city.oyama.tochigi.jp/kankou-bunka/event/page003868.html>

◎祭りの 1 カ月ぐらい前から各地区で練習していて、お囃子が聞こえてくる。夏の風物詩じゃないが、なかなかあれは風情でよかった感じ。

◎練習は一年中やっていた。

◎子どもさんたちに、引き継いでいくことが大事。蛇祭りもそうで、幼稚園・小学校の時代から、参加してもらうんだから、はい、よく来てくれたねと、子どもさんたちにはみんな、どこの町内でもみんな大事に扱っている。中学 3 年生が一応、親分としてみんなの面倒をみる。そういう形で子どもさんたちに、なんとしてもこれを継承していかなければいけない。

奉納相撲

◎間々田八幡宮と乙女八幡宮の相撲も、残していきたい。毎年やっている。

◎あれも子どもが中心で、けっこう人が集まる。

◎男の子も裸になるのが恥ずかしいなんて言うが、でもやっぱり恥ずかしがっているのは格好がつかない。

◎うちの自治会は、相撲大会とか蛇まつりとか色々あるので、育成会、若い世代が入ってくれている。

◎うちは住宅が増えて、子どものいる若い世代がどんどん増えている。だから、うちの周りは今まで、子どもの騒ぎ声なんていうのは聞けなかったのを、今は聞こえてくる。ああ、懐かしいなと思う。

◎育成会、子育て世代との、そういうつながりができてくるのも大切だ。

5：30 年後～未来の間々田地区・小山市

田園環境～水田を残していくこと

◎未来のビジョンで大事なものは、やはり田んぼかな。今、ほとんど自分ではやれなくて、今年もお願いしている立場なのだが。その人がやれなくなったときには、おそらく耕作放棄地にな

ってしまう。だからもう今からでも田んぼを残す算段を考えないといけないと思う。農業政策の問題だけではないと思う。残す環境は住民も行政も一緒になって考える。担い手がいらないのだから。田園環境と言っても、田んぼがなくなって草ぼうぼうで林みなくなるとは何もならないので。後継者、担い手不足の解消。それをちょっと考えてもらいたい。

◎都市部と田園部というのは、ここでいうと思川を挟んで向こうとこっちの関係も同じ。田んぼは今、こっちに作っているが、農家としてはほとんどの田んぼを 2 人ぐらいの人が担っている。全部頼まれてやっている。あれだけの広いところを 1 人か 2 人の方が請け負って全部やっている。だから、その人たちができなくなった後は、田んぼがそのまま残っていくかどうかもクエスチョンマーク。

◎トマトやキュウリなどは、施設栽培で生産される例が増えた。よく会社組織がそうした経営を行っているようだ。これからの農業の経営、継承には、会社組織を立ち上げて集団で営農し、受け渡しやすくすることも合っているかもしれない。

子どもや若い人が参加できる地域の催事を

◎今の子どもたちが 30 代、40 代になった時のことを考えて、やはり今から、幼稚園、小学校、そういう子どもたちに、地域のイベント、お祭りに、なんとしても参加する、そういう環境を作ってあげないといけないと思う。そういう環境というのはどういうことかという、例えば、お父さん、お母さんと一緒に来て、1 時間、2 時間、3 時間、半日遊んで、楽しんでいただけるようなイベントを用意すること。内容も、いろいろ考えられるが、子どもさんたちのことを最優先に。

◎今はどちらかというと、いろいろなイベントも高齢者関係が中心になっている気がする。高齢者も大事だが、子どもさんたちのこと

も考慮しながら、イベントを考えていかなければいけないかなど。ただやればいいのかというものではないと思う。

◎できるだけ、おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さん、それに子どもさんという世代みんなが楽しめるイベントを考えていくことが大切。

◎渡良瀬遊水地の外れの作業で、年1回とか2回とか、雑草取りとかを保全するためにやっている。私も始まったところに行ったが、当時は年齢層が私と同じような年の人ばかりだったが、最近は、最近は若い方とか会社の団体とかもさ参加しているそう。いいことだと思う。やはり、若い人も参加できるような雰囲気というかPRというかをしていかないと、そうでないと思っていけないと思う。

◎若い人々の参加を誘う地域イベントとして、クリスマス餅つき大会を催していたが、コロナ禍で中断された。地域イベントは、「こういうものをずっとやるんだよ」じゃなくて、「今まではこうだったが、これからはこう」と切り替えることが大事だと思う。

人口減少に見合った開発

◎県道のタクシーや人の流れなどを見ているだけでも、どんどん高齢化が進んでいるとわかる。それでも土地を開発して店や家を建てるといふ、そういう行為が行われている。それはその目的があつてのことだろうが、やはり環境というか規制を守っていくような、そういうことをもっと配慮した土地開発にすべきではないかと思う。

◎あれだけ木を伐採して、家を建てるといふこともどうだろうか。マイホームを持つのは個人の夢だが、それをなんの制限もなくやったら、一方で空き家ばかり増えてしまって、結局、後で問題になる。

河川の有効活用

◎ここは思川が流れていることも大切にしたい。活用というか整理というか。昔は河川沿いに麦などを作っていて、風景も綺麗だった。今は高齢化になって手が回らないから、みんな放棄してしまった。そうすると荒れてしまって、家電製品などが捨てられている。そういうことを考えると、河川の流域をもっと活用するとか、整理するとか。考えるべきではないかなと思う。もう少し歩踏み込んだ河川の整備なり活用ということをもっと考えられるといいのではないか。

◎川や土手は汚くすると、必ずごみの不法投棄につながる。ごみ拾いをしたが、ものすごい量のゴミがあった。

◎もう本当にすごい人がいると呆れたものだ。大きな家電も投げ捨てている。後手後手で回ってしまうとダメで、ああいうところは常にきれいにしておかないと、ゴミを捨てられてしまう。

◎河川の活用で言えば、昔は私らも屋形船を復活させようとか考えたりしていたが、思川は水量がない。川向こうは浅い。非常に難しい。

◎思川というネーミングも非常にいいので、思川の有効活用を考えて何か取り組みができないのか。特に間中橋から乙女大橋だけ川底を深く掘ってもらって、舟を渡すなど。そういうことを行うことで、誘客を図ったり、先ほど行った環境面をきれいにすることなど、それが両面できるのではないかと思う（昔、そのように考えていた時期があった）。

◎間中橋と乙女大橋の間の区間だけきれいにするようにできないか。

◎川の砂利取りをやっていたから、水位が結構保たれていた。

◎ダム型式で水を止めようと言ったら、防災の観点からできないとのことだった。

2 | 農業従事者の方々

参加者：農業委員・農地利用最適化推進委員、法人経営の方など5名

実施：2024年3月28日 18時～19時30分

場所：間々田市民交流センター（しらさぎ館）

1：参加者の農業経営や
地域との関わりについて

◎生まれも育ちも間々田で、米とキュウリを作っている。独自の技術で今はほとんど化学物質の消毒はしないで、オーガニックとしてやっている。外国の人たちを雇っていて、その賃金のために米を作っているような感じ。農業委員は、タブレットを支給されていて、地域計画などもあるので、目標地図だのなんなの、けっこう忙しくて大変。

◎国家政策だって言うけど、そんなことやる前にもっと農産物価格を、見直すとかやることはあると思う。世の中の情勢も変わってきている。

◎生まれも育ちも東黒田で、梨や米を作っている。農地利用最適化推進委員2期目で、3年前からこっちの任務も忙しくなった。

◎みんなで一生懸命やっているが、現実問題はなかなか厳しい、無理な面が多い、国の政策は、茨城とか県北へ行くと、大規模農家がたくさんいるが、そのほとんどが後継ぎがいなくて、そこが駄目になれば、その地域は、大規模に集約した分、全滅ということになる。

◎田園環境都市って掲げても、こっち（西部）は公道でもなんでも広いが、東部とか準農村地域は道路が無い。やっぱり米を作って広域農道にしていけないと。そうすることで、市街地に住んでいる人が散歩しても、道もゆったりして、道端に花など咲いていれば、なお良し。小

山は道路整備が遅れているから、20年、30年後は、農村部もそういう環境を目指さないと。

◎昨年7月から農業委員になって活動している。どちらかというと市街化区域のほうに多く土地があり、その維持管理を中心にやっている。父の時代は専業農家で田んぼが2町5反ぐらいやっていたが、私の代では、他に仕事をしていた関係で、ずっと減らして、今は7反3畝。また、ほとんど機械がないので、仕事を受けてくれる人に田植えと稲刈りはお願いしていて、中間管理だけやっている。65歳でサラリーマンの仕事を辞め、何もやらないのも寂しいだろうということで農業委員に誘われて引き受けている。

◎生まれも育ちも乙女。農家に生まれて、農業は引き継いだが、親までの代とは全然違うやり方で、米麦、キュウリをやっている。土地改良区の役員とかをやってきて、去年の7月から農地利用最適化推進委員も引き受けている。

◎東黒田で生まれ育って、22歳の時に就農し、20年やっている。親の代はキュウリを作っていたが、自分はトマトを作っている。就農するちょうどタイミングで、JAのトマト選果場ができるという話を聞いたので、キュウリはそのとき手選別だったので、それよりは選果場を使って栽培に専念したほうがいいのではないかという父の勧めもあって。

2：間々田の農産物について

梨

◎酷暑になってからは、肌が焼けてしまって栽培が難しい。センサーで見ると焼けているのがわかるそうだ。

◎昨年は、県北でも茨城とか千葉の市川あたりでも販売実績が前年対比の4割に落ちている。

◎昨年、豊水とにっこりはほとんど全滅のようなものだった。

◎実っても小さかったり。

◎だから、やはり遮光をしなくてはならないとか、酷暑を避けるような栽培に切り替えるとか、検討していかないといけない。

キュウリとトマト

◎父の代からキュウリ栽培。部会を作って共同出荷で農協へ出していた。

◎間々田は、もともとはスイカを作っていた。スイカは甘くないと売れないからなかなか難しい面もある。その代わりにキュウリを作り始め、小さい農家が多かったので、結構盛んになった。

◎面積的に狭くても、ハウス栽培で結構な収量になる。

◎昔はトンネルかけたり、油紙をかけたり、手間がかかるが、いろんなことをやった。今はなんでも機械化だ。

◎ハウスと露地と、だいたいどの農家も両方やっていた。1年3作で市場に出せる。

◎そうすると市場としては同じ産地で1年間、ぐるっと提供できる。間々田はその希望にんでいたたので、人気があった。

◎人数的にも相当の人数がいて、人気があって、一番のレベルだった。

◎ただ、うちは私がサラリーマンをやっているのて後は継がないということで、親の代でハウスは終わりにした。

◎若い人では、トマトをやる人が増えてきた。

◎自分の感覚では、キュウリ屋は農業者。トマトは農業の経営者、管理者の感覚。

◎キュウリは、施設の管理よりは、キュウリに向き合って、もぎって、露地なんかは年に2回ももぎって、年中キュウリとの戦いで、労働者だが、トマトは、機械や施設の管理をして人を雇って、管理の経営感覚が必要。

◎キュウリって、小さい時はたいしたことないが次第にどんどん大きくなって倍になってく

る。成長が早い。だから、夏だと1日2回もぎらないと売り物にならなくなる。

◎太くなり過ぎない方が、柔らかい。消費者もやはり太いよりは細くて長いのが柔らかさそうでおいしく見える。

◎東京の市場ではSサイズが一番高い。

◎トマトの収穫は1日おきぐらいになる。

◎始めてから10年くらいはJAの選果場を使っていたが、そのあとは部会を抜けて、全部自分で販売している。

◎JAは手数料が高い。経済連手数料など14.5%は最低取られる。

◎梨も取られる。

◎私がいた部会も、販売額に対して、自分の収入になるのは、だいたい7割ぐらい。

◎農協さんを通さないと自分で値段を決められる分だけ、市場の単価に一喜一憂することはないが、売り先も自分で消費者に近いところに納めているので、それはそれで相手がいることなので苦労もある。色々バランスを見て、いくつか売り先を作っている。

◎JAだと品質的に管理したり、品質的に落ちると、横向かれちゃう。味なんかがやっぱり問題になってきたりする。

◎JAはとりあえず作って持っていけばお金にはなるが、基本的にはないけれど、明日からは要らないよと言われるようなことも無くはない、極端な話。

◎農協も、選果場が6月までで終わり（グループインタビュー実施は3月）、栃木県で統一することになって、真岡に作ったから、そこに行かなくてはいけない。もっと手数料が上がる、運賃が余計入るから。

◎トマトは基本的には夏植えて秋の10月ごろから収穫して、翌年の7月で終わる、年1作。それだと、7月から次の収穫までの3カ月間空いちゃうので、そこまで収穫のない月が空かないように調整したりしている。

◎野木のトマト屋さんは、メロンを作っているところもあるようだ。

◎いろいろやってみたが、それはそれで。オペレーションが変わるというか。トマト一本でいったほうが良いという判断をしている。

◎メロンやスイカは、1回もぎって終わり。でもトマトはうんと段数取れば取るほど収穫できるし、キュウリは、一回摘んだところにまた芽が出てきて実になる。いやになるくらい。

◎キュウリの場合、春は芽を伸ばせと言う。伸ばしてとる。秋は、水をあげて、陽気がいいから、太陽光線もあるし、肥料をあげると伸びる。摘んで少しストレスを与えないとダメ。トマトもストレス与えないと味がのらない。

◎トマト栽培は、二十数名ぐらいパートさんがいて、交代しながら大体1日に15、6名はきてもらっている。近隣の方で、子育て中の方から上は60代まで。

米麦

◎親の代、米は1町歩ぐらいしかやっていなかったが、現在では米と麦合わせて4町ぐらい。退職してから最近増やしている。ほとんどのものは出荷する。麦は全量を出して、米は自分で食う、半分以上は飼料米で出荷するが。

◎乾燥させて袋にいれる作業も、ライスセンターに預けると使用料がかかるので、自分の乾燥機で乾燥して、紙袋で出荷する。費用は浮くが力仕事でなかなか大変。大量にやっている人は、トン袋やフレコンの人もいる。なかなか設備投資もままならない。

◎フレコンは飼料米も一般米も小山の農協は扱ってくれる。飼料米は農協へ乾燥を頼む。

◎飼料米というのは、別に刈りが早かろうが遅かろうが、品質も何も関係ない。重量だけ。

◎今年度からは制度が変わって、専用品種でないと値段が安い。品種で決まってしまう。

◎その影響で、辞める方も出てきている。

◎今年までは飼料米を作るが、来年からは価格が安くなるから、割に合わなくなるので、借りている農地を返したい、と。そういう人が出てくる。

3：耕作放棄地と集約化について

農地の貸し借り

◎農地の貸し借りは、特に今は農業委員会で、中間管理機構を通して、5年なり10年なりの期間でやっている。借りる側は10年後には返すよという頭でいるが、貸したい側はずっとやってくれるものだと思っていて、お互いの勘違いが多い。

◎貸す側は機械も何もない状態で貸す。10年後は返ってくるという認識がないまま、永久だと思って、耕作を頼む。だから、「返されちゃって、とても困っている」という話が多い。

◎貸す側は、自分はもう完全に辞めるつもりで貸す。永久にやってくれるものだと思っているが、契約上は10年間とか5年間で中間管理機構はやっている。

◎また、小作の考え方の違いがある。貸す方は、昔のイメージで農地の使用料（地代）としてお金を取りたいが、借りるほうのイメージは、お金をもらって作ってやるよ、と。

◎自分で耕作できなくなって草放題にすると周りにも迷惑かけるし、農業委員会でも注意されるので、結局、管理する。だから、借りて作るほうが、これからはお金を頂くような感じに次第になってくるのだと思う。

◎正直なところ、今の米の価格は、借りて耕作する方も、本来は管理費をもらって耕作しないと割に合わないようなもの。農業だってなんだって値上がりしている。

◎そのあたりは、農地所有者の理解がないとトラブルの元になる。5年後、10年後には必ず返ってくるものだと思って準備していないと駄

目。貸した人は、お金だけずっともらえればいいなというイメージがあるので・・・。

所有者不在の農地

◎相続で農地を持ってしまった人が、東北や九州や北海道に住んでいるというケースもある。仕事の関係で引っ越しちゃうとどうしようもない。

◎東京に住んでいる人が相続しても、その人が亡くなったら、その人の相続人があちこちに散らばっていて、5人とかに増えて、結局、共有名義になっている・・・などの例もある。

◎そうになると、道路を作るにしても難しいことも多く出てくる。国の所有にするのが一番良いのではないか。

◎先手先手で行かないとダメ。

増加傾向にある耕作放棄地

◎田んぼをやっていた親が亡くなったりして、子どもがやらない場合、まずは知り合いに頼む。近所の人、農家仲間で、例えば自治会内の仲間とか知り合いに頼んで、どうしてもならないと農業委員会へ話が来る。今は、そんなに数は多くないが。

◎貸していた人から、農地を返されちゃったという相談が多い。誰かが引き受けなくてはならない。

◎放棄地を解消するから補助金頂いて始めたが、結局できなくなって、また農業委員会に戻ってきたという話もある。

◎場所によって、農地の状況もずいぶん違う。乙女の南部地区、野木町に近いところなど、基盤整備をしていないところは、一筆が小さい。市街化区域以外のところは非常に道路も狭く、場所によっては入口がないとか袋地とか、道路に面していない農地も結構点在している。

◎他人の土地を借りて出入りだけしている人もいる。農業をやるための基盤整備というのが非

常に遅れている。また、農振農用地として指定されているところでも、適していない場所もけっこうある。既に耕作放棄地になって、葎が生えたり木が生えたり。所有者の不在農地も増えてきている。

◎同じように、間々田地区のこの水田の北地区、中学校の北から砂利採取場までの間は、やはり土地改良がされてないので、半分ぐらいの大きさ。今日午前中に見てきたが、不法投棄の場になっている。冷蔵庫だの家庭のごみだとかぶん投げられている。

◎今、白鷗大のグラウンド、特に北側はひどい。

◎耕作を2年やらないと、もう葎が生えたり木が生えたりしてくるから、1年でススキは大変になってきて。2年にはもう木が生えて。

◎桑が一番早いです。鳥が実を食べて飛んできて、糞を落として、すぐに根付く。

◎私もそのところに1枚持っているが、東西南北で田んぼは北側だけ。あと3方向はもう放棄されている。

◎放棄地は結構ある。特に間々田土地改良区内の南は、山際なんか全部がそう。

◎機械が入らないところは、受け手がいない。

◎道路に面していて、大きな区画の畑であれば、茨城の法人でもいくらでも買いに来る。

◎畑はもう、陸田も含めて畑はなかなか難しい時代だと思う。

◎八千代や古河の法人が、こっちで畑を借りて白菜などを作るところは、化学肥料しか使わないから地下80メートルぐらいまでは地下水が汚染されている。県外の施設農家との情報交換で情報は入ってくるが、自分のところで作れなくて、小山に進出しているところも多い。

◎危なくてしょうがない。

◎一般の人は知らないから、地下水の汚染は本当に怖い。

◎県外から来ている法人は、都合が悪くなるとすぐに撤退して農地を返す。

◎だからもう汚染するだけ汚染して白菜が作れなくなると、返されてしまう。採算が取れる大きなに育たなくなると、すぐに返す。そうすると地下水汚染だけ残る。

◎外から来て農地を借りている全員ではないだろうけれど、外の人間は、ここの土地に執着があるわけではなくて、収入に執着があるので。

◎環境とかいろいろな地域の特性を生かして、定着するわけではなくて。

集約化の問題

◎集約化が進み過ぎちゃうと、今度は、その大規模にやっている農業者が白菜をやる法人のように撤退したり、地区の農家でもその人が倒れて後継者を育てていなければ、その地区の農業は、終わり。

◎貸している側は必ず返ってくるという意識を持っていないと。

◎土地の集約というのは本当に曲者で。いずれは自分のところに戻ってくるという認識で貸している人がどの程度いるかというのが問題。借りる側は永久に借りるという認識は今持っていない。やはり5年10年頑張っ、て、高齢になったら全部返しちゃう、て、自分の土地だけでなんとか金にしていこうという意識の人が多い。

◎実際のところは、地主側で名義変更させてくれとか、買ってくれというような交渉している。もう持っていきたい、と。

◎そういう話はよく聞く。貸すと必ず返ってくるから、買い取ってくれという。

◎息子とも、自分の家の農地だけは守っていければいいという話をしている。

◎自分のうちの農地はなんとかしていくが、よその農地まではやってられない、要はそういう考えになってくる。

◎先祖代々の農地を守る気持ちは持っているだろうが、生活が優先になってしまう。人の農地までは面倒見られないというような、そういう

時代になってきてしまったのが事実だと思う。社会的にそれがいいか悪いかというのは別問題にして。

◎だからやっぱり、国も考えてくれないと。日本の米はおいしいんだといって、外国にグローバルに輸出して、1俵2万ぐらいで売れている状況が作り出せていれば良いのだが。そういうことを政府が全然やってないから、問題がどんどん増えてくる。

◎結局は、子どもがいない、少ないんだから、もうしょうがない。本当は集約というのは、借りるのではなくて売買でやれば良いのだろうが、みんな要らないというから、売買が成立しない。

◎だから、もう耕作できないときは農業委員会に返す、国に返すというか、そういう風にしていかないと。

◎実際問題として、国は受け取らないだろう。

◎なかなか難しいみたいで、境界が確定していたり、管理してある土地でない。と。荒れ地になっていたり草が生えていると駄目らしい。

◎そういう放棄地でも草が生えてても、国は引き受けて集約していくようなことにしないと。

◎農水省は引き受け手になるらしいが、管理しないと。

◎地域がやるということだ。それはひどい。

◎多面的支払いとか、いろいろ助成があっても、その受け皿になるような協議会なり組織が、農業人口が減って高齢化してきたら、そもそも作れない。

◎都賀の大柿地区というのは、耕作放棄地が増えてしまったので法人みたいのを組織してソバ畑にしてい、てソバ栽培を大々的にやっている。

◎もともと日本人は農耕民族なので、家庭菜園にし、る規模が小さいにし、る、棚田ぐらいのところで好きなものを作、てみんな管理できれば、そういうものが理想だと思う。

4：30 年後～未来の間々田地区

◎30年後のまちづくりと言われても農家には難しい。

◎やっと税金の申告が終わって落ち着いたと思ったら、いつ播いていつ田植えして留め先の作業を考えないと。

組織化の課題

◎乙女南部地区の専業農家は、後継者はいるが、その人がどの程度までやれるかという未知数ですし、新たな組織がない。営農集団もあるにはあるが、法人化されていなくて解散するかどうかという話になる。農家が減ってくると営農集団でさえ作る人がいない。

◎若い人は皆無だから。

◎地区によっては営農集団自体が高齢化してしまって、後継者がどこ家庭もいない。だからどうするかという話もあるが、その前にいろいろな補助金がみんな米麦関係は整理されてしまって、ほとんど合わないというのがだんだん分かってきてしまっている。飼料米も含めて。

◎5年間、水張りしない田んぼは田んぼとして認めないので、交付金の対象から外されてしまう、あと2年後には外されてしまう、そういう問題も出てきた。

◎陸田とか畑にしたところを今さら水張りするかというと、皆さんそれはもういいやという。それがもう2年後には見えているので、その間に、麦でも作って野菜でも作って補助金だけもらって耕作できればいいというのが大方の考え。

◎農家は十人十色だから、組織化というのがなかなか難しい面もある。特に農作業をやる時期はみんな一緒なので、機械も1台、2台買っても間に合わない。

◎非常に難しい。実質、営農集団とはいえ半分は個人出荷。営農集団で田植えから稲刈りを請け負ってやってくれるのは半分ぐらい。そのや

っている人がみんな高齢化で、もうやらないとか、誰か作ってくれないかなとか、そういう話になる。営農集団が身売りしちゃう。受け手なのに。

◎受け手が身売りしたのでは・・・。

◎トマトでいえば、全国的に生産過剰になっている。

◎昔のハウスよりも今、背の高いハウスで作るのが主流になったので、長い期間収穫ができて、1年を通して、市場にトマトがある状況になってしまったの。そうすると、僕らの先輩方の昔からやっている農家さんで、ハウスのちょっと軒が低いタイプで作っていた人たちが割が合わなくなってくる。燃料も上がって、資材も上がって、トマトは安いし、後継者いないし、ここらがやめどきかなというようなタイミングにだんだん入ってきているのが現実。そのときに、ではそのハウスが朽ち果てるのを待っているだけかということ、それはそれでもったいないと思う。若い人で新規で、二十歳そこらで就農したいという人も中にはいて、就農するのに資金が必要で、ハウス施設農家になるのに数千万が必要なので、そこで諦めてしまう。そのときに、自分の法人が、サポートしてあげられるような組織になりたいというのが夢。栽培から施設のメンテナンス、とりあえずお膳立てまでしてあげて、こういうところでやって見たら？と。そういう新規就農者が育ってくれば、例えば出荷組合、大きい農協でない、違う自分たちの出荷組合というのもできて、それがちゃんと法人として成り立っていくことができればいい。

◎家業としての農業は破綻するけど、土地もあり、施設もあるとなったときに、それを法人だったら受け継げる。家族でない方も受け入れて、ちゃんと持続していけるのが法人なので。法人の存在意義はやはりそこにあるのではないかなと思う。(マッチングのために) そういうこ

とができるようなサポートを・・・、例えばこのハウスが空いている、ここが空くよとか、そういう情報を農業委員会の方々に教えていただけると良いのではないかなと思う。

◎たしかにそれはいいと思う。同じ地域、小山市の中で、そういうハウスがあれば、交通の便がそんなに悪いわけではないし、道路の舗装もだいたいしてあるし、1カ所にまとめて業者に渡すこともできるから、不可能ではないと思う。

◎ただ、若い人が簡単に事業継承などで農業できる環境を手に入れられるのは、それはそれで問題もあるかもしれない。ビジネスとして成り立たないからやめると言われたところで、貸したほうはどうにもならないので。

◎栽培に関して言えば研修に行ったり学ぶ道はいろいろあるが、法人の運営となると、また栽培とは別の話。トマトは作れたけど、組織運営は素人でしたというところでの苦労はある。

そうなると、それはそれで得意な人に任せたほうがいいということになって、栽培と経営と、それぞれ得意な人が受け持つなど、そういうことができるのが法人のメリットでもあると思う。

生き物調査とホタル

◎子どもたちとの関わりでいえば「田んぼの学校」とか生き物調査がある。

◎間々田地区では、乙女小学校で田植えと稲刈りの体験をやっている。

◎生き物調査の延長で、メダカを飼って育てたりしていたが、今も続いているのか。

◎生き物調査は続いている。

◎ホタルもいるが、この辺りだと川に引っ張られてみんな思川に行ってしまう。

◎昔は、毎年ホタルまつりをやっていた。

◎簡易ハウスでも建てて、泊まれるホタルの鑑賞会とか、そういうことができるといいと思

う。

◎用水路、排水路の周りに農薬を使っていたのでは駄目だ。除草剤も。

◎カワニナ貝がいるところじゃないと。

◎中小河川みたいなのが小山には無い。

◎30年後ではなくて、今から30年ぐらい前だったら、この辺にもいたが。

◎今は、夜に散歩に行っても、全く見ない。

3 | 子育て世代の方々

乙女小、間々田小、間々田東小のそれぞれから育成会役員、PTA 役員の現役の方/経験者の方、合計 5 名。

実施：2024 年 5 月 10 日 18 時 30 分～20 時

場所：間々田市民センター（しらさぎ館）

1：参加者の方々の地区との関わり

◎出身は岩舟で、結婚を機に夫の実家に来て住んでいる。介護関係の仕事をしていて、中学生と小学生の子どもがいて、昨年、育成会の役員をやっていた。普段の生活圏はやはり小山、佐野と野木、古河など。

◎野木出身で県外にいたこともあるが、子育てのために、U ターン。フルタイムで働きながらその傍ら、PTA 役員も経験。

◎生まれも育ちも間々田で、仕事は、3 代目の夫とともに間々田紐の制作と販売のお店を営んでいる。中学生と小学生の子どもがいて、今年は、育成会長になっている。普段の生活圏は、やはり小山、古河、佐野など。

◎出身は下野市の小金井あたりで、二十歳ぐらいに一人暮らしをするのを機に小山に引っ越し。今は、小学生、中学生、高校と 3 人の子どもがいて、令和 2 年度に育成会会長を経験。商工会の役も一通り経験し、今年は、小学校 PTA の役員をしている。また、NPO 法人の会計を担当している。

◎地元がここで、家を建てて住んでいる。平日だけフルタイムの仕事をしながら、子育て中。時々、イベントのバイトで土日仕事になる時も。次男が 6 年生の時に育成会会長を務め、その後は間々田の育成会連合会の理事をやっている。小学校 PTA 本部役員も今年で 6 年目。生活圏は、普段の買い物については、間々田はスーパーが増えているので、間々田地区内です

む。生活雑貨や服になると宇都宮に行くか結城あたりに行く。

◎佐野での行き先は、ほとんどが、アウトレット。車があれば、間々田は普段の買い物も特別な買い物も便利なところ。

2：子どもの頃からの間々田地区の変化

自然が減り家が増えた

◎ずいぶん変わった。子どものころは、森とか平地林とか、畑が周りにあって、タヌキやキジをよく見かけた。今は、それらが全て家になってしまった。道も整備されて広くなったし、ボコボコの道も減ったが・・・。

◎オークションの中古車置き場も面積がとても拡大して、車だらけになってしまった。

◎店舗はとても増えたが、飲食店は増えていない。

◎お茶できるところがない。

◎自然は、減り過ぎているのではないかというのはある。最近、イノシシがよく出る。息子も学校帰りに遭遇したこともあり、何回も通報している。それはやはり林や森が減ったからではないか。自然が減って家が増えたことで、イノシシの問題もあるし、車も増えて、子どもたちの移動など、交通面でも注意しないといけないし、いい事はあまりないかも・・・。

◎イノシシは、本当に増えた。朝、車で出勤しているときに横からバーっと出てくる。轢きそうになって本当に怖い思いをした。

◎中学校の下校の時間とかによく見かけている。とても大きい、1メートルくらいの大きさのものも出る。

◎家の近くには、タヌキもいる。

◎タヌキは、車に轢かれているのをよく見る。

◎本当に家がものすごく増えている。風景が変わるくらい。

遊ぶ環境の変化

- ◎私たちが子どもの頃は、そんなに車の通りもなかったの、道路でもよく遊んでいた。
- ◎今の子どもたちはボールを使って遊びたくても、使える場所がない。
- ◎近くの子は長者町グラウンドを利用したり、自転車に乗れるようになって、ボールを使えそうな公園を見つけて、そこに行くという感じで。
- ◎近くに公園が2、3箇所あっても、ボールが使えない。
- ◎ボールは禁止。例えば、牧ノ内の7号公園は、敷地内5、6カ所に「ボール禁止」という立て看板が何本もあって。どんだけ禁止されているの？という状態。
- ◎住宅地が増えれば、公園も増える。でも、ボールが使えないから小学生が外遊びできる場所がない。
- ◎家の前に公園があるが、遊具が小さい子向けで、狭い小さい公園。ボール禁止は書いていないが、小さい子が遊んでいるところで小学生が硬いボールを使ってガンガン遊んだりすると、やはり安全面は気になる。家の裏には、もっと広いボール禁止も掲げていない、普通のグラウンドに近いぐらい広い公園もあるが、なぜか、ボールを持った小学生が、小さい公園の方に来る。それぞれ理由はあると思うが、小さい子、小学生で、使い分けたり、時間帯をずらしたり、うまく使い分けできたらいいと思うが。
- ◎放課後、小学校の校庭で遊べるかどうか、それは情報がなくて分からない。
- ◎開放してくれたらいいのになと思う。
- ◎学校によっては、休み時間にボール遊びをやってはダメとか、サッカーやってはいけないとか、決まりがあったりする。
- ◎あと、何年生以上にならないとボール遊びができないとか、聞いたような気がする。
- ◎子どもたちだけではやっては駄目みたいな決

まりも聞いたことがある。

- ◎ドッジボールはしていいみたい。
- ◎不思議なルールがある。何か理由があって、そういうルールができたんだと思うが。

3：コロナ後の育成会の活動について

育成会の変化、子どもたちの変化

- ◎新しい家には、間々田地区に新しく転入してきた方が多い。今年あたりから育成会を抜ける方が増えて、地域と関わるのは面倒くさいという人が多くなったなという印象はある。それまで、今、高校生のお姉ちゃんが小学生ぐらいのときには、やらなきゃ駄目だよ、入ってなきゃ駄目だよみたいな風潮だったが、今の若い世代の保護者の人は「面倒くさいから入らなくてもいいんでしょ」から入ってくる感じなので。1人抜けてしまうと、次から次への連鎖反応で抜けてしまっただいぶ減った。一部ではあるが、価値観がもう違うなという印象がある。
- ◎活動を休止する地区が毎年出てきている。
- ◎時間の使い方も多様化してきて、例えばクラブチームとかに子どもが入っていたりすると、土日の時間をそちらに充てるから、育成会の活動ができない人も少なからず。さらにプラス、関わりが面倒くさい、入ると役が付いてくるでしょう・・・という考えが先に出てしまう。
- ◎子どもの意見を先に聞いて・・・というのではなく、仕事を増やしたくない親の考えが通っている気もする。子ども自体が遊ぶとか活動するのは減ってしまっている。
- ◎うちでは、今年度に会則を見直して変えようということで、会則の上では全員参加ということになった。それは回覧でも周知したことだが、実際、それが皆さんに行き届いていない。そもそもその変え方自体に疑問点が残っているところではあるが・・・。
- ◎子どもの数自体が減っているので、育成会の

行事も、ここはもういいよねというところは無くしている。運営についても、ずっとここに住んでいたわけではないので、今までどのように育成会の活動をしてきて、どこを目指しているのか、どう引き継いでいけばいいのかなど、見えにくいところがあるとは感じている

◎イベントは、やるとみんな楽しそうに参加している。残せるものは残して継続していきたいが、やったらいいのかなというところがあるが共働きの世帯がとて多くなっている、そうすると土日に育成会以外の子どもの用事があったり、家族で出かけたりする家も多いので、なかなか育成会のイベントがそこに入っていくのも、その兼ね合いが難しい。

◎平和地区は自治会のサポートが結構手厚く、自治会長さんをはじめバックアップがすごい。行事のたびに、子どもたちにも説明してくれたり。イベントとしては、蛇祭りをやる。地区の中を練り歩くだけだが……。夏休みに入ったら、お楽しみ会。去年は公民館に集まって、お菓子を食べながらみんなで映画を見て、映画が終わったら、かき氷を作って食べて解散。その後はラジオ体操を夏休み1週間。12月初めには、天神講のお参り。学問の神様をしのぶお参り。あとは6年生を送る会をやっている。送る会は時期的にインフルエンザが流行って中止になることもある。全体を通して子どもたちの参加率も結構高く、去年は、育成会を抜けた人はいない。

◎うちは、コロナ拡大までは、育成会の行事としてボーリングに行っていたみたい。コロナを挟んで行事のやり方自体がけっこう変わった。

◎乙女地区は、今年はやると聞いていて、でも現地集合、現地解散で。

◎昔と今の変化では、昔はいろんなイベントが多かった、子どもたちもみんな顔見知り、一致団結みたいな感じがあった。ドッジボール大会をやっていた頃など特にみんな仲いい

なという印象があった。

◎最近、子ども同士でも「あの子誰？知らない」みたいな。

◎近所なのに分からない。学年が違うと分からない。登校班が違うと分からない。

◎顔は知っている。見たことあるけど、でも、名前も知らないと言う。今は名札をつけているわけではないので。

育成会連合会の活動

◎間々田地区の育成会連合会では、年度初めに総会をやって、会長さん向けの研修を5月にやって。もともとは、夏にドッジボール大会、冬の1月にマラソン大会があったが、コロナでできなくなって、ドッジボールの部門と野球の部門もあったが、子どもたちがだんだん集まらなくなってきて、コロナを機にそれもなくしてしまった。

◎でも何か違うものをやらないと、育成会がみんな行事を止めているから……と、その代わりに子どもたちが集まって何かできることを考えた。去年からは野外で映画を見ようとか、あと、バルーンに乗ってみようとか。外で活動できて、コロナでも心配なくできるであろう縄跳びを何回飛べるか競争など。そうしたら、意外と子どもたちが集まる。ちょっと飛んだだけでお菓子をもらえるみたいな（笑）。感染対策として最初のときは学区別に。学校からの要請で、学区の子がかぶらないようにという配慮もしたが、去年からなんとなく大まかな分け方にして、多少はかぶっても問題ないという考え方でやっている。

続けるモチベーション

◎私個人は、子どもたちに囲まれた生活をしたというのがある。子どもたちがにぎやかでいる状態、何も考えずににこにこしているのを見るのがとても嬉しい。子どもたちも心身ともに

健康的だと思えるし、平和だと思う。間々田地区にこども食堂を作りたいと思って、ボランティアでそういうところに学びに行っている。

◎今の子どもたちは、休みの日などは、クラブ活動以外だと、やはりどうしても家の中でゲームとかばかりしてしまう。休みの日も外に出て、ほかの学年の子も混じり合って地域の子たちと遊ぶというのは、親としてはいいことだと思っている。育成会とかもそういう意味では貴重な活動。

◎参加している子はみんな楽しそうにしていますよね。

4：間々田地区の困りごと

小中学校の規模や通学環境など

◎間々田小、乙女小が3クラスで、間々田東が増えていて、4クラス。

◎間々田中学は、東小が増えている影響で、1年生が6クラス。

◎通学路は道が狭いので、車も狭いところなのに結構スピード出して通っていったりするのでもとても危ない。

◎歩道も、ラインだけが引いてある。グリーンベルトみたい線が学校までずっと続いているだけで、とにかく狭い。

◎朝の通学時間帯は、この道路は車は通れないという規制があるので、まだ良いが、下校時間が、悲惨なことになっている。

◎中学生も時間がかぶるから、自転車もいっぱい走っていて。

◎いつか重大な事故が起きてしまうのではないかと不安がある。

◎通学路の木陰も、八幡さまあたりの木の下しかない。

◎おーバスによるバス通学も認められたので、希望者は利用している。

就学前の居場所が無い

◎子どもが小さい時に連れていける児童館が無い。うちの子は連れて行ったことがない。

◎小山地区か城南なのか、あるとは聞く。ただ、どこでも聞くことだが、小山市は児童館認知が非常に低い。

◎子育て中の当事者たちが知らないし、知っている人には評判が悪い。とても残念な。

◎間々田の人たちって、子育てと児童館のイコールの概念がない。

◎そこに行って相談する人がいるとかという認識もない。

◎そう。よその市では、例えば下野市は児童館に行けばどうにかなんとかなるんですけど、小山は全くそんな考えがない・・・。

◎保育園では未就園児のクラスがあることはある。

◎ただ、調べれば、そんな情報が出てくるという感じ。

◎知る人ぞ知るみたいな・・・。

◎毎日やっているわけではなくて、月に1回とか2回。フリースクールみたいのも兼ねて、無料でやっている。

◎園によって違うところもある。その未就園児のクラスに参加していないと、その保育園に入園できないところもあるし、ただ遊ばせたいと行っている人もいる。園によってやり方がぜんぜん違うから。それもやはり調べないと出てこない。

◎知っている人が少ないから教えてもらえないし、情報も口コミで伝わらない。

◎夏休みとか、学童的に小学生が来て、混ざって遊ぶことになる、ちょっと怖い。小さい子は親が一緒だから大丈夫だけれど、小学生は子どもだけで来ているので、目が届かないし遊ぶのも活動的でよく動く。先生も、別に注意したりしてくれるわけではなく、いるだけ。

◎間々田は、子どもたちの遊び場、親子で遊べ

るところが本当に無い。小山まで行かないと。

予約が取れない小児科

◎間々田は、病院が無いわけでは無いが、小児科で人気のところは予約が取り難くて本当に困っている。

◎予約が取れない時は、午後に回して再度予約にチャレンジしてみるか、子どもの症状がひどい時は、あまり行きたく無いけど、他を探す。

◎ただ、そうやって普段は行かない病院にいくと「他にかかっているんでしょ」と言われてしまい、行きにくい。

◎歯医者が多い。どこ行こうと逆に困ってしまうぐらい。

道路状況の不具合

◎新しくできた城南につながる新しい道路で、間々田アンダーに行く右折信号が欲しい。

◎なかなか進めない。右折レーンは一応小さいがあっても、右折信号が無い。

◎あそこは大きい交差点なので、なかなか右折ができない。

◎間々田駅のほうから小山の方に向かって、バートとすごい車が流れてくるので。

◎朝もアンダーのところだけではなく、その次のとりせんとトライアル、あそこの先まで車が並んで渋滞している。全く進まない。

◎西堀酒造すぐの新しいところなど、他にも右折信号がなく車が進めないところがある。

5：間々田地区で大切に守りたいこと

間々田紐

◎間々田紐は、家族経営で職人は4人でやっている。手仕事で大量生産できない仕事で、とても手間がかかる。

◎子どもたちに伝える取り組みとしては、夏休みに小山市内の小学生の体験を組んだり、小山

市で企画して少人数の学校とかでは体験講座を毎年定期的にやっているの、学校を回ったりはしているが、小規模校限定になってしまう。

お囃子

◎学区内には南飯田神田囃子があって活動している。

◎東小のクラブでも和太鼓クラブがあって、コロナ前は地域のイベントに呼ばれたりしていた。去年あたりからまた活動しているのではないかな。

◎粟宮の安房神社ではお神楽があって、知り合いが参加している。

◎何かつながりがないと、なかなか地元の祭りや神楽など、知る機会がない。

◎蛇祭りしか分からない。

蛇祭り・じゃがまいた

◎蛇祭りと言ったり、じゃがまいたと呼んだりしているが、文化庁の登録の時には（無形民俗文化財）登録名を「間々田のじゃがまいた」にしてある。

◎参加町内は育成会が中心に龍を作ったり祭りの準備をしたり・・・。

◎基本的に子どもがメインの祭り。

◎蛇祭りは育成会がメインだけど、自治会も一緒に協力してやらないとできない。お賽銭も子どもにあげる。そのお賽銭は自治会の班の皆さんに頂く、そのお賽銭集めからやっているの、けっこう、親も大変。

◎担ぎ手は、中高生がメインで、大人の担ぎ手も。これから育成会は本当、見守るだけの方向性で・・・とも聞いているが、まだ数年先になるかもしれない。

◎育成会も減り始めているので、子どもの数が減ったら存続できなくなるのではないかと心配している。今はまだ大丈夫だが。

◎長者町など、割と新しい家がたくさんある地

区はいいとして、間々田一丁目とか二丁目とか、結構昔からの人しか住んでいないような、新興住宅地とかが全然ないようなところでは、子どもの数がどんどん減っていつている一方。それに加えて育成会に入らない家庭も増えているので、それで蛇祭りを成立させていくのが結構大変。

◎中学生も参加自由にしたので、参加しないという子もいる。そうするとやはり中学生もすごく少なくなり、例えば、一丁目は今年、中学生の男子が3人しかいなかった。あと女子が10人ぐらい。小学生もすごく少ない。蛇をつくる準備にしても、大人の人の負担がすごく増えてきて、自治会や育成会の大人の人の力がないと成り立たないようになってきている。

◎ゆくゆくは一丁目、二丁目で合同になってしまおうのではないかという話も出てきているようだ。

◎乙女地区でも、蛇祭りをやっている。熱中症の心配もあるので、午前にちょっとやって、午後また集まって、公園を掛け声かけながらぐるっと回って、それで終わらせた。

◎自治会の人に来て音頭とりでやるぞ！というところに子どもたちも頑張っているんで、うちの地区は自治会の人たちが元気なうちは存続できそうだが。

南飯田の神田囃子・安房神社の太々神楽・間々田のじゃがまいた 小山市ホームページ「小山市無形民俗文化財」

https://www.city.oyama.tochigi.jp/kankou-bunka/rekishi_bunka/bunkazai/page000032.html

商店街に新しい循環を生みたい

◎4号線沿いのシャッター街もとても寂しいので、何とかならないか。すごく寂しいです。

◎駅の西側、乙女の方に浅草通りというのがあって、そこも賑わっていた頃は、その通りで御

神輿かついだりしていた。

◎「つるや」さんの通りとかも、お店も更地にもなっていないくて皆さんそのままなので、どうするんだろうという感じなんですけど。

◎建物があって看板だけ残っていて、シャッターが下りているところは、2階に人が住んでいるようなところも数軒あると思う。

◎皆さん個人でしょうから、難しいでしょうけど・・・。

◎循環してほしいなと思う。大人も子どももみんな含めて。もっと活性化できないか。

◎これから、できれば、子どもたちも絡めて何かできればいい。

◎空き店舗を借りて、若い方が新しいお店を始めたいという話もほとんど聞かないので、そういう動きも出てくるようにできればいい。

3-2 アンケート調査結果(概要と考察)

間々田地区で実施したアンケートについて、ここでは、主要な設問の結果について概要と考察を掲載する。設問内容によっては、既に調査を終了した他地区の結果との比較も行う。

質問票と、単純集計・クロス集計の詳細、自由記述を書き出したデータは別添資料(アンケート集計結果報告書)に掲載する。

回答数/回答率について(再掲)

回答数

- ・回答総数：659 件
- ・郵送による回答：571
- ・インターネット回答：88

郵送での回収率 22.9% 2,493

母数 2,493(宛先不明の戻り 7 通を除く)

集計有効数：654 件

締め切りを大幅に過ぎて届いた等の 5 件を除外

1：回答者の属性について

1-1 設問【1】の集計結果

-1 性別

男性 43% :278 名	女性53% :344名
---------------	-------------

その他 2 名 無記入 30 名 無効 0

-2 年代

70 代以上	23%	147 名	44%
60 代	21%	139 名	
50 代	17%	109 名	34%
40 代	17%	112 名	
30 代	13%	88 名	21%
20 代以下	8%	52 名	

無記入 7 名 無効 0 名

-3 世帯人数(回答数が多い順)

4 人以上世帯	27%	174 名
2 人世帯	31%	204 名
3 人世帯	19%	126 名
本人 1 人世帯	18%	118 名

無記入 31 名 無効 1 名

-4 職業(回答数が多い順)

会社員	36%	234 名
無職	31%	204 名
パート/アルバイト	16%	105 名
自営業	6%	37 名
公務員	4%	26 名
団体職員	2%	11 名
学生	1%	8 名
農業(兼業)	1%	5 名
農業(専業)	0%	0 名

その他 16 名、無記入 7 名 無効 4 名

調査票での「無職」の表記は、「無職(退職者・主婦・主夫等含む)」

-5 お住まいの大字

-6 地域活動の経験

>別添資料(アンケート集計結果報告書)に掲載

-7 間々田地区との関わり～回答が多い順（選択肢から選ぶ方式）

無記入 20 名、無効 2 名

間々田地区で生まれて、一度も地区外で住むことなく、今に至る。	42 名（6%）
間々田地区で生まれて、就職のために地区外へ出て、戻った。	43 名（7%）
間々田地区で生まれて、進学で地区外へ。のちに戻った。	12 名（2%）
間々田地区で生まれて、進学、就職で地区外へ。のちに戻った	19 名（3%）
小山市の他の地区で生まれ育ち、間々田地区に移り住んだ。	62 名（9%）
栃木県内の他の市町で生まれ育ち、間々田地区に移り住んだ。	121 名（19%）
栃木県外で生まれ育ち、間々田地区に移り住んだ。	333 名（51%）

間々田地区
生まれ 18%

間々田地区以
外の県内から
移住 28%

県外から
移住 51%

●出身地別の内訳

集計結果を、生まれた県や市町でまとめ、その割合を見ると、このような内訳になる。

栃木県外で生まれた		51%	70%
栃木県内の他の市町で生まれた		19%	
小山市で 生まれた	他の地区	9%	27%
	間々田地区	18%	

●コメント欄の記述

間々田地区に他所から移り住んで来た人や U ターンした人には、コメント欄にその理由を記入してもらった。（コメント回答 467 件）

主な理由を表に挙げ、コメント欄の記述から一部を紹介する。

コメント要旨	回答件数
①仕事の関係で	119
②結婚に関する理由で （結婚を機に実家に）なども含む	84
③一戸建てなど自宅の購入や建築	57

●間々田地区へ U ターンした人の記入コメントより

①仕事の関係で

◎転職を機に小山地区に住もうと思ったが、小山地区はごみごみしていたので周辺で再考してままだを選んだ ◎職場に近い ◎通勤に便利、など

②結婚に関する理由で

◎結婚を機に夫の実家に入った ◎間々田出身の人と結婚して縁ができたから、など

③自宅の購入や建築

◎交通の便がよく自然にも恵まれているから
◎老後は家庭菜園をやりたいので・・・など

1-2 集計結果より

ここで特筆すべきは、仕事や結婚などで間々田地区に縁ができるケースではなく、隣接する地区なども含めた範囲で「生活利便性が高く、なおかつ自然環境が残っている」という理由や「老後の生活を見据えて、農的生活のために」間々田を選んだという人が一定数いるということ。地区内に都市環境と田園環境が調和が取れた形で残っていることは、今後のまちづくりの指針になる。

2：生活圏について

2-1 設問【2】の集計結果

選択肢から1つを選ぶ

-1 仕事や学校へ通っている地域

-2 日常的な買い物や用事で出かける地域

-1 仕事や学校へ		-2 日常的な買い物等	
行先	回答数	行先	回答数
間々田地区	166	間々田地区	423
茨城県	60	小山地区（駅東）	77
小山地区（駅東）	51	小山地区（駅西）	67
栃木県内野木町以外	51	茨城県	13
小山地区（駅西）	49	栃木県内野木町以外	11
埼玉県	29	野木町	11
東京都	27	東京都	5
野木町	17	大谷北中部地区	5
宇都宮市	15	埼玉県	3
大谷北中部地区	13	宇都宮市	1
大谷南部地区	8	群馬県・千葉県	1
群馬県・千葉県	7	穂積地区・中地区	1
穂積地区・中地区	5	桑地区	1
絹地区	4		
桑地区	3		
寒川地区・生井地区	3		
豊田地区	1		
その他	17	その他	3

-1 無記入 123 無効 5

-2 無記入 27 無効 5

選択肢から2つを選ぶ

-3 休みの日に「特別な買い物」「会食」「イベント」
等でよく出かける地域

-4 休みの日に「自然の中でリフレッシュ」「アウトドアスポーツ」等で出かける地域

-3 特別な買い物や会食等		-4 自然の中で・・・	
行先	回答数	行先	回答数
小山地区（駅東）	227	県内の他の市町	197
小山地区（駅西）	192	間々田地区	163
宇都宮市	134	茨城県	126
東京都	120	小山地区（駅西）	75
茨城県	92	群馬県・千葉県	61
県内の他の市町	88	宇都宮市	49
埼玉県	88	埼玉県	45
間々田地区	82	小山地区（駅東）	44
野木町	32	野木町	28
大谷北中部地区	18	東京都	21
穂積地区・中地区	5	寒川地区・生井地区	12
桑地区	1	大谷北中部地区	8
大谷南部地区	1	穂積地区・中地区	6
絹地区	1	桑地区	3
寒川地区・生井地区	0	大谷南部地区	3
豊田地区	0	豊田地区	2
その他	19	その他	63

-3 無記入 41 無効 3名

-4 無記入 110 無効 1名

2-2 集計結果より

間々田地区では、仕事、日常的な買い物や用事、休みの日に自然の中でリフレッシュしたりアウトドアスポーツを楽しんだりすることにおいては、地区内で完結している回答者が圧倒的に多い。間々田地区を選択した回答者が少ないのは「特別な買い物や会食、イベントなどで出かける場所」

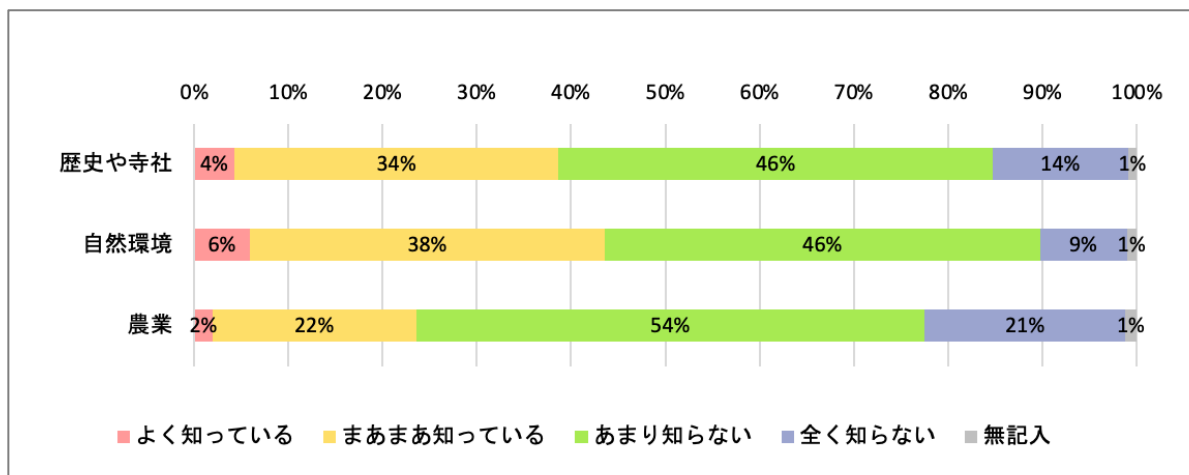
であり、その行先としては、小山地区、宇都宮市、東京都が上位3つに入っている。また、県内の他の市町については、佐野市、栃木市、那須町という順になる。佐野市はアウトレットモール、栃木市はデパートがあることが要因であると推察できる。

3：間々田地区の地域資源への認知度・関心度

3-1 設問【3】の集計結果

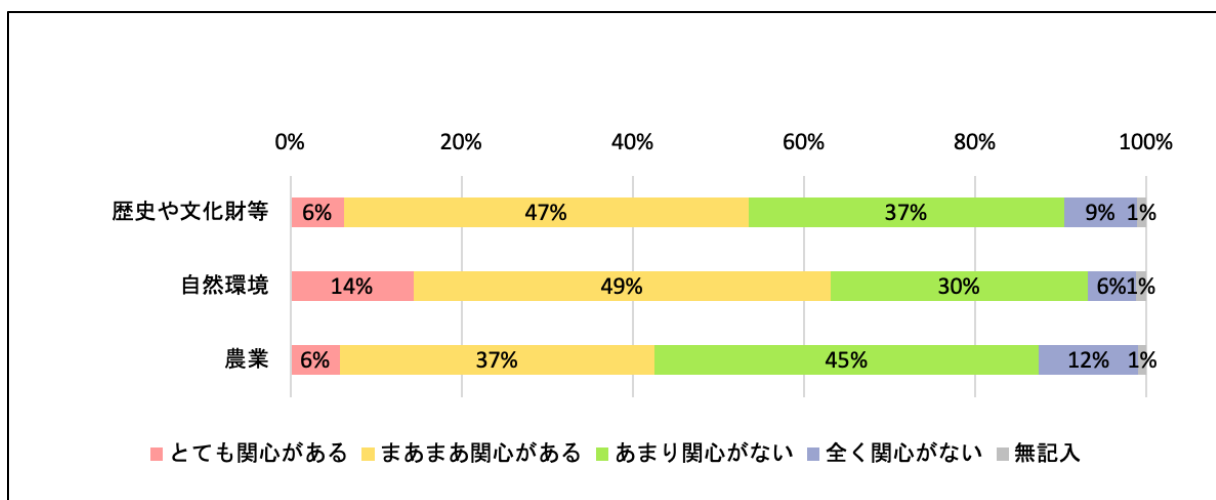
A 認知度を把握する

- (1)地区のなりたちの歴史や、近隣に残る城跡や神社や寺の歴史、由緒、祭り等を知っていますか？
 (2)地区にある公園、街路樹、平地林などについて知っていますか？
 (3)地区内の農業についてどのような地域でどのような農業が行われているか知っていますか？



B 関心度を把握する

- (1)地区のこのような歴史、祭り、伝統芸能に関心がありますか？
 (2)地区に残る自然環境に関心がありますか？
 (3)地区の農業に関心がありますか？



●年代別の集計結果

(1)間々田地区の歴史や寺社、城跡、祭りについて

(無記入、無効の数値は表に含まない)

	知っている		知らない	
	よく	まあ	あまり	全く
全世代	38%		60%	
	4%	34%	46%	14%
20/30代	5%	28%	45%	22%
40代	3%	29%	54%	13%
50代	3%	37%	52%	7%
60代	2%	43%	43%	12%
70代～	8%	35%	39%	15%

関心がある		関心がない	
とても	まあ	あまり	全く
53%		46%	
6%	47%	37%	9%
8%	38%	41%	14%
4%	46%	38%	13%
7%	43%	40%	8%
5%	53%	37%	6%
7%	57%	30%	3%

(2)間々田地区の公園、街路樹、平地林などについて

(無記入、無効の数値は表に含まない)

	知っている		知らない	
	よく	まあ	あまり	全く
全世代	44%		55%	
	6%	38%	46%	9%
20/30代	7%	30%	45%	18%
40代	3%	29%	58%	10%
50代	8%	39%	44%	8%
60代	4%	42%	48%	6%
70代～	7%	48%	38%	4%

関心がある		関心がない	
とても	まあ	あまり	全く
63%		36%	
14%	49%	30%	6%
12%	41%	36%	11%
6%	53%	34%	7%
13%	49%	32%	6%
17%	52%	27%	3%
22%	52%	22%	1%

(3)間々田地区の農業について (無記入、無効の数値は表に含まない)

	知っている		知らない	
	よく	まあ	あまり	全く
全世代	24%		75%	
	2%	22%	54%	21%
20/30代	3%	13%	49%	34%
40代	2%	10%	64%	23%
50代	0%	17%	66%	16%
60代	2%	30%	51%	17%
70代～	3%	34%	45%	16%

関心がある		関心がない	
とても	まあ	あまり	全く
43%		57%	
6%	37%	45%	12%
8%	29%	42%	21%
4%	37%	46%	13%
3%	35%	51%	10%
4%	42%	48%	6%
10%	41%	40%	7%

4：解消したい困りごと

4-1 設問【4】の集計結果

質問「あなたが「無くしたい」「解消したい」「解決したい」と考える間々田地区の困りごとは、どんなことでしょうか？」—— 事前に自治会長の皆様への説明時にご相談して設定した選択肢を用意し、その中から3つ選んで回答する設問とした。

●回答が多い順(数字は回答人数・無記入などは不記載)

1 公共交通の不便さ	174
2 道路の不具合	141
3 空き家・空き地の増加	116
4 路上等のゴミとゴミ出しのマナーの悪さ	111
5 買い物の不便さ	109
6 地域の集まりや寄り合い	101
7 地域活動の担い手、後継者不足	94
8 子どもが外遊びできる場所の減少	86
9 祭りや伝統芸能の担い手、後継者不足	83
10 治安の悪化	82
11 選択肢が少ない働く場所	81
12 昔からの風習	71
13 医療機関の不足	70

14 選択肢が少ない教育環境	65
15 地域でのコミュニケーションの不足	61
16 騒音など住環境への影響	57
17 交通渋滞	48
18 人口減少	46
19 台風・大雨による被害	44
20 農業の担い手、後継者不足	43
その他・無記入・無効は記載していない	

●ジャンル別の割合

その他と無記入を除いた選択肢を、6つの領域に分けて全体に占める割合を示す。

1 生活環境に関すること	32.4%
2 交通や移動に関すること	24.2%
3 人口減少・担い手・後継者不足	15.8%
4 地域コミュニティに関すること	13.8%
5 教育環境や就労に関すること	13.8%
6 水害に関すること	2.6%

●年代別の集計結果(選択肢の言葉は一部省略または言い換え。全回答者による上位3項目は、赤・青・緑の文字。年代により、差異がある項目は下線をひいている)

20代 52名	30代 88名	40代 112名	50代 109名	60代 139名	70代以上 147名
1 買い物の不便さ	1 子供の外遊び環境	1 公共交通の不便さ	1 公共交通の不便さ	1 公共交通の不便さ	1 公共交通の不便さ
2 働く場所の選択肢	2 道路状況の悪さ	2 教育環境の選択肢	2 治安の悪化	2 空き家空き地の増	2 空き家空き地の増
3 道路状況の悪さ	3 買い物の不便さ	3 子供の外遊び環境	2 道路状況の悪さ	2 道路状況の悪さ	3 買い物の不便さ
3 公共交通の不便さ	4 地域の集まり	3 道路状況の悪さ	3 ゴミ関連のマナー	3 ゴミ関連のマナー	4 道路状況の悪さ
4 祭り等の担い手	5 教育環境の選択肢	3 地域の集まり	4 空き家空き地の増	4 地域活動の担い手	5 地域の集まり
5 ゴミ関連のマナー	5 公共交通の不便さ	4 治安の悪化	5 買い物の不便さ	5 働く場所の選択肢	6 地域活動の担い手
6 教育環境の選択肢	6 空き家空き地の増	5 ゴミ関連のマナー	6 地域活動の担い手	6 祭り等の担い手	7 地域でのコミュニ
7 地域活動の担い手	6 治安の悪化	6 祭り等の担い手	7 祭り等の担い手	6 地域の集まり	ケーション不足
7 子供の外遊び環境	6 ゴミ関連のマナー	6 昔からの風習	7 医療機関の不足	7 地域でのコミュニ	8 ゴミ関連のマナー
				ケーション不足	9 医療機関の不足

4-2 集計結果より

間々田地区は、田園地帯も有しながら市街化が進み、人口の増加率も（小山市統計年報によると）1970年から2020年の50年間に於いて、大谷地区に次いで、増加率97.5%という高さを維持している。また、JR東北本線の間々田駅があり、本アンケート【1】7でUIJターンの理由を問う設問では「交通の利便性が良いことと自然環境が残っていること」を挙げている回答者もいる。

とはいえ、設問【4】の「解消したい困りごと」の集計結果では、「公共交通の不便さ」「道路状況の悪さ」「空き家・空き地の増加」が上位を占め、生活利便性が低いという声が多い田園部と同じような結果になっている。また、人口は増加しているものの、地域活動のさまざまな担い手不足である実像も、集計結果から浮かび上がっている。

以下に掲載する設問【4】の自由記述に寄せられたコメント（一部を抜粋して紹介）から、その詳細を把握していく必要がある。

--

(1) 移動の問題と生活の不便さ（公共交通・道路状況の不具合）

◎バスの本数が少ない。終バスの時間が早い ◎4号線西側のバスがない ◎おーバスの停留所までが遠い。便数も少ない。これでは利用したくてもできない ◎間々田駅までバスに乗りたいたいが、本数が少ない。結局車に乗ってしまう ◎車がないと買い物に行くのも病院に行くのも大変。バスも本数が少ないので、高齢者の運転免許証返納は厳しいと思う ◎車社会なのに、頻繁に小さな渋滞が発生しており、別の道を使ってもそっちも混んでいることが多い。また、道路の路面状態も悪いところが多いと感じる。信号無視、一時停止違反、速度超過等の交通規則違反も ◎飲食店が少ない ◎産婦人科が少なく、仕事をしながらの通院ができず仕事を辞めた。子供の病院も少なく、混んでいて仕事と両立できない

*また、間々田地区の場合、交通量の増加による通学路の危険と、各所で発生する渋滞に次いで、多くの方から改善を望む意見が上がっており、いくつか紹介する。

◎4号線栗宮（南）交差点信号の変則の為渋滞がひどくなった。（旧道と新道の信号を同じにして国道4号の信号を優先してほしい） ◎通学路が狭くて危険。時間指定に車が侵入することあり

◎間々田小学校、中学校への道幅が非常に狭いです。千駄塚の裏道、通学路の開発を。道が狭いため子供達が心配です ◎かわらの里公園付近（乙女一丁目）は大雨で床下まで浸水する。

(2) 宅地開発と空き家・空き地の増加

◎空き家空き地が目立つようになった。古い蔵や古民家などをリノベーションや活用できないかと考えている ◎空き家は防犯的によくない。害虫も発生して困る ◎空き家が増え、泥棒が入り物騒。道が狭く、知人も遊びに来たがらない ◎空き家問題は全国的にありますが、今後ますます増え、自分たちもいずれは子供が巣立ち、直面する問題だと感じています ◎4号沿いの空き店舗が多く、それらの有効活用が今後の課題ではないか

(3) 担い手、後継者の不足

◎自治会活動や役員の担い手は、毎年減少や脱会が続いており止まらない。自治会そのものを小さく、役割も削減していかないと現役世代は負担やストレスを感じて続けてくれない。必要最小限のコミュニティや役割だけを残せばよい ◎地域活動や祭りなど、自治会に加入している家庭の負担が大きすぎる。自治会を退会した人はなんの負担もなく（集金年一万円ぐらい。役員班長のストレス）不公平を感じる。特に消防員や震災の寄付、蛇まつりの材料費ぐらいは納めるべきではないか（自治会へ加入していない世帯でも） ◎祭りの意味も知らず行う育成会行事・高齢者が増えていく中での自治会の役員の選出（出来る人が減っている）

5：大切に守り継ぎたい地域の宝

5-1 設問【5】の集計結果

質問「あなたが「大切に守っていききたい」と考える間々田地区の小さな自慢は何でしょう？」
設問【4】と同様に選択肢を用意し、その中から3つ選んで回答。

●回答が多い順（数字は回答人数）

1 地域に残る歴史ある史跡、神社やお寺・・・	275
2 街路樹や公園、平地林などの自然・・・	255
3 各地域に残る祭りや風習、伝統芸能・・・	233
4 買い物の利便性・・・	191
5 交通の利便性・・・	132
6 まちなみや景観・・・	102
7 各地域に残る歴史ある建物や古木・・・	101
8 地域の農業・・・	56
9 趣味やスポーツの地域のサークル・・・	49
10 公民館で行われる祭りやイベント・・・	43
11 消防団や自治会など地域の互助活動・・・	40
12 地域の商業・・・	35
13 地域の工業・・・	14

その他・無記入・無効は記載していない

●ジャンル別の割合

その他と無記入を除いた選択肢を、6つの領域に分けて全体に占める割合を示す。

歴史的な地域の資源	40.0%
利便性が良いこと	21.0%
地域に残る自然環境	16.8%
地域コミュニティの繋がり	8.7%
地域の産業（農業単体で2位）	6.9%
地域の景観	6.7%

●その他について

その他を選択した回答が29件。コメント欄に具体的な記載があったものを掲載する。選択肢にあるものについてのコメントもあるが、そのまま掲載する。

◎特にない ◎自治会活動の低迷 ◎空気の良さ ◎思川沿いの土手、桜と菜の花、富士山も見える景観 ◎美術館イベント ◎都内へのアクセスが良好であること

●年代別の集計結果（選択肢の言葉は一部省略または言い換え。全回答者による上位3項目は、赤・青・緑の文字。年代により、差異がある項目は下線をひいている）

20代 52名	30代 88名	40代 112名	50代 109名	60代 139名	70代以上 147名
1 祭りや伝統芸能	1 残っている自然	1 史跡、神社やお寺	1 残っている自然	1 史跡、神社やお寺	1 史跡、神社やお寺
2 史跡、神社やお寺	2 史跡、神社やお寺	2 残っている自然	2 史跡、神社やお寺	2 残っている自然	2 残っている自然
3 交通の利便性	3 買い物の利便性	3 買い物の利便性	2 祭りや伝統芸能	3 祭りや伝統芸能	3 祭りや伝統芸能
4 買い物の利便性	4 交通の利便性	4 祭りや伝統芸能	3 買い物の利便性	4 買い物の利便性	4 買い物の利便性
5 まちなみや景観	5 祭りや伝統芸能	5 交通の利便性	4 歴史ある建物や木	5 交通の利便性	5 交通の利便性
6 残っている自然	6 まちなみや景観	6 まちなみや景観	4 交通の利便性	6 歴史ある建物や木	6 歴史ある建物や木
7 歴史ある建物や木	7 歴史ある建物や木	7 歴史ある建物や木	5 まちなみや景観	7 まちなみや景観	7 まちなみや景観
8 地域のサークル	8 地域の農業	8 地域の農業	6 地域の農業	8 地域の農業	8 地域のサークル
9 地域の互助活動	9 公民館での催事	9 公民館での催事	7 地域の商業	9 地域の商業	9 公民館での催事

5-2 集計結果より

アンケート回答者の属性（設問【1】7）で、間々田で生まれ育った人の割合は 20%弱という結果であった。約 80%の人が、県外（約 50%）や小山市の他の地区、栃木県内の他の市町からの移住者であり、新旧住民が混在する地区ではあるが、設問【5】の集計結果の通り、新住民も「生活の利便性」だけを大切に考えているわけでもなく、歴史的な地域の資源や、自然環境を大切に継承していこうと考えていることが伺える。

以下に上位の項目について、自由記述に寄せられたコメントの一部を抜粋して紹介する。

(1) 歴史ある史跡、寺社、風習、伝統芸能など
◎じゃがまいたの風習そのものはとても素晴らしいと思います。地域のシンボルとしてこれからも大切に守っていきたいと思います。ただ、GWのほぼ全てが風習のために動員されてしまうことが今の時代にあっていないのではと疑問に思います。今後も持続可能な祭りであるためには新しい方策が必要だと思います。ゆるく薄く広くでも関わり代がある祭りになって欲しいと思います ◎蛇祭りは、子供が小さい頃は育成会など参加していましたが、大きくなった今、今年は自治会で久しぶりに参加してみて、良いお祭りだと再認識しました ◎地域のお祭り等に昔からの人と新しく入居された方のコミュニケーション不足。若い人が地域に入らない。

(2) 地域に残る自然

◎鶯やキジなど鳥の鳴き声に癒される。昔は朝早いと山からカッコウが飛んできて鳴いていた ◎整然と並んだ街路樹。たくさんの花や緑に安心感が伝わる。人間だけではなく、鳥や小さな虫、生きものたちが気持ちよく生きられる。自然と共生できるまちに ◎ここ数年で広大な平地林が伐採され、環境へ影響や治安の悪化(大きなトラックの路上駐車や運転マナー)を懸念しています

◎間々田とりせん辺りの木の伐採が悲しかった。自然のある地方の良さが失われている ◎アクセスの良さを残しつつ自然にも恵まれているところがいいところだと思っています ◎絶妙な田舎感が丁度良いです。都心に通勤することでもき、かつ自然も多い点等 ◎静かで治安もよく、人も優しい。暮らしやすい町だと思います

(3) 生活の利便性

◎生活用品の買い物が便利、お店が増えてとても便利になりました ◎間々田地区に集まっているスーパーに、他県他地区から買い物に来ている ◎「24 時間営業の店」は継続できるよう皆で利用してあげた方が良い ◎買い物するのにスーパーが増えたこと。4 号線渋滞緩和で道路が新しくつながったこと ◎お年寄りが増えてよく聞く話が、買い物が不便だということです。昔の乙女も間々田も商店街があり、いろいろなお店がありました。いまはみんなシャッター街で古びているだけで、間々田駅西口の方は特にさびれてしまいました。空地や空き家などで若い人達で商売をやりたい人がいたら市で協力してあげてチャンスをあげてほしいと思います。古河の駅のところにも 1 年間商売を試しでできるという施設がありました。間々田や乙女でも街が元気になるようにしてほしいです

(4) 地域コミュニティ

◎地域住民と新しく移住した方々とのコミュニケーション（が大切） ◎新住民、昔からの住民のかかわりが薄い街。イベントでもいつも参加者が同じ。新しく改革する姿等まったく見られない ◎消防団や自治会活動の精査。負担を減らし本質の活動を望みます ◎地域の互助活動、地域のサークル、公民館での催事を通じて地域のコミュニティを大事にしたい

6：暮らしの価値観

大問【6】として、個人の暮らしの中での充足感や豊かさをどう考えているかを問う質問を設けた。これは、SDGsの推進や持続可能な地域社会運営の構築を考える際に、生活者の価値観とそれに基づく行動様式の考察も必要不可欠であるという見地からの対応となる。

(1)については、全国的な傾向と比較するために内閣府が実施している「国民生活に関する世論調査」(1現在の生活について(4)現在の生活の充足感)と選択肢を同じくしている。同調査では、この質問は、昭和49年(1974)から継続されているので、経年での国民意識の変容も確認することもできる。

(1)(2)については、田園部・都市部の調査結果が出揃ってからの比較検討のデータとするため、ここでは単純集計の結果の掲載にとどめる。

(1)「日頃の暮らしの中で「充足感を感じる」のは、どんな時ですか？」*選択肢から3つ選んで回答

●回答者が多い順(数字は回答人数)

- 1 ゆったりと休養している時・・・418
- 2 家族だんらんの時・・・386
- 3 趣味やスポーツに熱中している時・・・358
- 4 友人や知人と会合、雑談している時・・・275
- 5 仕事に打ち込んでいる時・・・190
- 6 勉強や教養などに身を入れている時・・・98
- 7 社会奉仕や社会活動をしている時・・・44

その他27名、無記入9名

(2)「あなたにとって「豊かさを感じる幸福な暮らし」は、どのようなことでしょうか？
豊かさや幸福の実現に「最も大切だと思うもの」は？」*選択肢から3つ選んで回答

●回答者が多い順(数字は回答人数)

- 1 心も体も健康でいられること・・・464
 - 2 好きなことができるだけのお金や資産のゆとりがあること・・・302
 - 3 好きなことをする時間のゆとりがあること・・・295
 - 4 老後、災害、犯罪や戦争などの心配がなく、安心して安全に暮らせること・・・258
 - 5 自然に恵まれた環境の中で、またはその近くで暮らせること・・・130
 - 6 家族や親戚、友人や地域の人たちと助け合って生活すること・・・107
 - 7 モノはあまり所有せずに、できるだけシンプルに身軽に暮らせること・・・81
 - 8 家庭菜園や花づくりなど、土に触れる時間があること・・・66
 - 9 家電や車など物質的に満ち足りた環境で暮らせること・・・53
 - 10 困っている人の役に立てる活動や、地域、社会の役に立てること・・・43
 - 11 住んでいる地域でつくられている農産物や商品が手に入る環境で暮らすこと・・・29
 - 12 情報や商品が手に入りやすく文化芸術に触れる機会が多い都会で暮らせること・・・27
 - 13 地域の伝統や文化を絶やさず継承し、次の世代に引き渡す活動ができること・・・12
 - 14 日本各地、世界各国の農産物や商品が手に入る環境で暮らすこと・・・4
 - 14 社会的な地位を築き、名が知れた存在になること・・・4
- その他4 無記入7

7：望ましい小山市の都市環境のあり方

7-1 設問【7】の集計結果

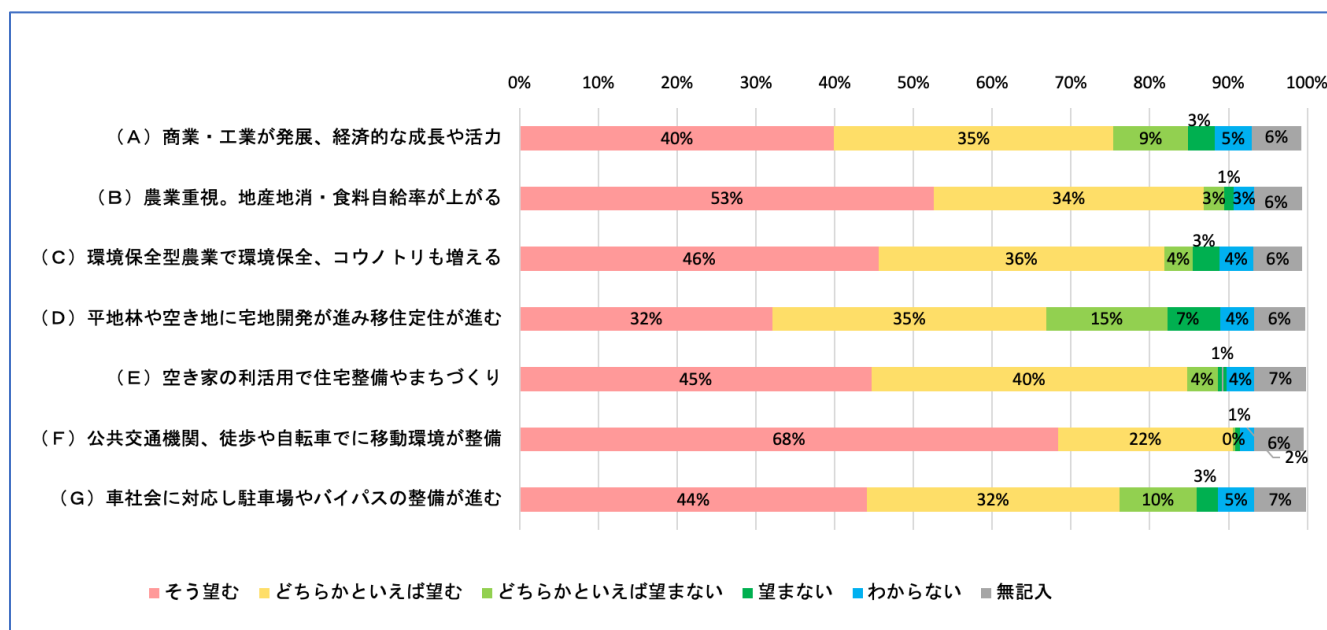
質問：「最後に、小山市のこれからのまちづくりについて、お考えやご意見をお聞かせください」

(1) 20年後、30年後の望ましい小山市の都市環境

のあり方について、ご意見をお尋ねします。

A から G それぞれについて、選択肢の中からお考えに合うものを選び、番号を「回答欄」にご記入ください。（後略）

選択肢①そう望む②どちらかといえば望む③どちらかといえば望まない④望まない⑤わからない



支持・共感者が多い順（「そう望む」「どちらかといえば望む」の割合の合計が高い順）

* 選択肢の文末「・・・小山市」は省略 * () 内の数字は「そう望む」の回答者の%

- 90% (68) (F)公共交通機関の整備や、徒歩や自転車で安全・快適に移動できるまちづくりが進む
- 87% (53) (B)地域の農業が大切にされ、地産地消が進み、市域内の食料自給率が上がっている
- 85% (45) (E)空き家の改修や利活用が進み、あるものを大切に住宅整備やまちづくりが進む
- 82% (46) (C)環境保全型の農業によって自然環境も良好に保たれ、コウノトリも増えている
- 76% (44) (G)車社会に対応して、駐車場やバイパスの整備など、車での移動が快適になる
- 75% (40) (A)商業・工業が発展し、工業団地も増え経済的な成長や活力が重んじられている
- 67% (32) (D)空き地や平地林などに新しい宅地開発が進み、定住する若い世代や移住者が増

●「そう望む」の割合が高い順

- (F)公共交通機関の整備や、徒歩や自転車で・・・
- (B)地域の農業が大切にされ、地産地消が進み・・・
- (C)環境保全型の農業によって・・・

●「そう望まない」の割合が高い順

- (D)平地林や空き地に宅地開発・・・7%
- (A) (C) (G) が、3%で次に並ぶ。

●年代別の回答結果

年代ごとに整理して比較する。単位は、すべて「%」。 選択肢のうち「わからない」への回答および無記入の割合は除いている。「そう望む・どちらかと言えば望む」の支持率が全年代平均より高いところは赤字にしている。

		20代	30代	40代	50代	60代	70～	全体	
A 商業・工業が発展し、工業団地も増え経済的な成長や活力が重んじられている	そう望む	48	34	45	39	39	40	40	75
	どちらかと言えば望む	33	44	37	35	39	30	35	
	どちらかと言えば望まない	4	11	7	15	8	10	9	12
	望まない	4	5	4	3	4	1	3	
B 地域の農業が大切にされ、地産地消が進み、市域内の食料自給率が上がっている	そう望む	50	40	58	57	62	48	53	87
	どちらかと言えば望む	33	45	36	36	30	31	34	
	どちらかと言えば望まない	4	5	2	1	3	3	3	4
	望まない	2	3	0	1	0	1	1	
C 環境保全型の農業によって自然環境も良好に保たれ、コウノトリも増えている	そう望む	40	31	49	45	54	47	46	82
	どちらかと言えば望む	33	50	36	37	36	31	36	
	どちらかと言えば望まない	4	10	3	3	2	3	4	7
	望まない	10	5	4	6	1	1	3	
D 空き地や平地林などに新しい宅地開発が進み定住する若い世代や移住者が増える	そう望む	37	32	34	28	30	33	32	67
	どちらかと言えば望む	31	41	36	34	40	28	35	
	どちらかと言えば望まない	15	14	16	21	16	12	15	22
	望まない	4	8	7	9	6	6	7	
E 空き家の改修や利活用が進み、あるものを大切にしたい住宅整備やまちづくりが進む	そう望む	52	40	43	44	46	46	45	85
	どちらかと言えば望む	27	49	50	42	43	29	40	
	どちらかと言えば望まない	8	7	1	6	3	3	4	5
	望まない	2	1	1	1	1	1	1	
F 公共交通機関の整備や、徒歩や自転車で安全・快適に移動できるまちづくりが進む	そう望む	71	68	74	70	72	60	68	90
	どちらかと言えば望む	15	30	21	25	20	22	22	
	どちらかと言えば望まない	0	0	1	0	1	0	0	1
	望まない	2	0	0	0	1	1	1	
G 車社会に対応して、駐車場やバイパスの整備など、車での移動が快適になる	そう望む	69	57	51	43	35	30	44	76
	どちらかと言えば望む	17	28	35	34	40	30	32	
	どちらかと言えば望まない	2	6	9	14	13	10	10	13
	望まない	2	3	1	3	3	4	3	

7-2 集計結果より

●本設問の趣旨

本設問は、田園環境と都市環境の調和が取れた未来の小山市のあり方を考えていくにあたり、その基盤となる「産業、宅地開発、交通政策」について、各地区ごとに「積極的支持/共感」から「不支持」の軸の上で、市民の考えを確認していくものである。項目としてあげたことは、これまでのグループインタビューでも語られているように「開発か自然環境保全か」「工業優先か農業優先か」

などの「二者択一」で語るのは非常に難しい側面がある。「未来の子どもたちのために自然環境は残したいが、開発もして人を呼び込まないと地域が廃れてしまう」など、多くの市民の意識には「どちらか」では割り切れないある種のジレンマが存在する。それではどうするか？という小山市の未来へ姿と、そこへの道のりを市と市民で意見交換を重ねながら探っていくのが、未来ビジョンの策定であり、そのための参考資料として、本設問の結果はディテールを読み解きながら活用していくものとしてほしい。

●結果の概観：間々田地区の特性

他の地区と同様に、上位3項目に「公共交通機関の整備」「農業重視」「空き家の利活用」の順で並ぶ結果となっている。ここでは、「住宅整備」をどのように進めていくかについて地区住民の意識に着目したい。

項目(E)は「空き家の改修による利活用」、項目(D)は「空き地や平地林に宅地開発」としている。田園部でも、市街化が進んでいるエリアがある間々田地区でも、支持率(そう思う・どちらかといえばそう思う)は(E) > (D)となっているが、その開きに田園部と間々田地区での差異が見られる。田園部では、例えば絹地区では差異が9%、寒川地区では8%と、10%以下であるが、

間々田地区では(E) 85% > (D) 67%と、18%の開きがある。人口減少が進む田園部では、どのような形であれ移住者を呼び込む住宅建設が切実に望まれており、間々田地区のような市街化が進んでいるエリアでは、平地林を皆伐し宅地開発が進んできた状況に対して、懐疑的な意識が強く(アンケートの自由記述やグループインタビュー記録より)、自然をなくす宅地開発より、増え始めている空き家の利活用を望む傾向が(田園部より)強いことの現れだと読みといて良いと考える。

7-3 自由記述の内容について

【7】では下記のように自由記述の欄も設けた。

(2) 最後に、お考えやご提案を自由にお書きください。*例えば、上記のAからGであげた例以外に、20年後、30年後の望ましい小山市の都市環境のあり方として、お考えがありましたら教えてください。*また、小山駅周辺の都市環境を持つエリアも、それを取り込む田園環境が広がるエリアも、バランスと調和がとれ、より良い関係を作りながら持続可能なまちづくりを進めていくために、小山市が大切にしていけるべきこと、具体的なご提案など、自由にお書きください。

300名から回答があり、別添の「アンケート集計結果報告書」では、回答をテーマごとに掲載した。複数の項目の記述がある場合は分割して掲載している場合もあり、また、明らかな誤りと認識できる表記は書き換えているが、基本的には原文のままの記載としている。

本報告書では、別添の「アンケート集計結果報告書」にテーマごとに掲載した回答者のコメントからビジョンの考え方の根本に関するご意見を抜粋して、紹介する。

7-4 自由記述から一部を掲載

1. 間々田地区の未来について

◎環境整備：空き地の有効活用～せっかく思川桜があるのだから公園などに植栽して市民の憩える公園、ビオトープなどを作って、モロコなど自然に観察できるところを作ってはいかがでしょうか ◎20 年前に比べるとだいぶ緑が減り、空き地化が進んでいると思います。必要ではあるがバランスよく。虫かご・網を持ち虫取りなど近くでできる環境も残してほしい

◎田舎のままで良い 7 (C) のコメント「コウノトリについて」必要？他の鳥は？キジとかは？「野鳥」でよくないですか？

◎東京港区のように、枯葉の少ない(ゴミが出にくい)樹木を植えてほしい

◎間々田地区東側で近年、平地林の宅地、商業地の開発、小山～野木への新道路環境開発が進行中ですが、利便性が良くなる反面、自然が破壊されつつあり、野鳥、動物の声、姿が少なくなってきた事に懸念を感じます

◎平地林を残しながら、空き家や持ち主が近隣に不在の土地等を活用する事で、若い世代の移住と自然環境の維持が出来ると良い。自然災害に強く、都内にも山にも近い地理的特性を上手く活用。加えて面白いと思える特徴(平地林を活かしたアクティビティ等)も移住してもらうには必要だ

◎住宅の近くに林があり、鶯等の野鳥や大きな桜があり、とてもよい所でしたが、最近林の木々が伐採され、どんどんと開発され続けています。便利になるのはよいのですが、自然の多いこの地域が変化していくのは忍びないです。田も林もあまり潰さず、自然を大切にしておけないものではないでしょうか。小山駅周辺をもっと都会的に開発し、まわりは自然いっぱい！都市環境と田園環境を行き来しやすい車の整備。老後、安心して免許を返納できるような公共交通機関の整備がほしい

◎トキや渡り鳥たちの食べ物、豊かな自然環境を

守るために、農薬を減らしたり、除草剤もなるべく減らしてほしい。きれいな水、空気、大地が無ければ、人も動物たちも生きていけない。いつか間々田八幡宮の池にもホテルが戻ってきてくれることを願います。子供達の笑顔のために、道路の草むしりや掃除など、できることからやってみようと思います。通学路に落ちているタバコ、ゴミなど気付いたら拾う。明るい未来のためにできること、まだまだある。無関心がはびこる世の中にならないように、大人がしっかりしないと

◎間々田、小山地区内で、生活に必要な大型商店、その中に公園や平地林を残し、若い人が働ける、子育てが楽しく、他地へ行かなくとも生活できる、そんな間々田にしたいと願いたい

2. 小山市域全体の未来について

◎都会と田舎の中間の感じが小山市にはあると思います。自然や農業を大切にしながら住みやすい地域になってもらいたいです。ぜひ若い人の意見を大切に、耳をかたむけて都市作りをしていて下さい

◎最近林の木々が伐採され、どんどんと開発され続けています。便利になるのはよいのですが、自然の多いこの地域が変化していくのは忍びないです。田も林もあまり潰さず、自然を大切にしておけないものではないでしょうか。小山駅周辺をもっと都会的に開発し、まわりは自然いっぱい！都市環境と田園環境を行き来しやすい車の整備。老後、安心して免許を返納できるような公共交通機関の整備がほしい

◎小山市は平地に恵まれ、自然災害に見舞われることがあっても甚大な被害にまでは至らない地域であると思われる。少なくとも観光地ではないので、今さら他からの集客に期待するのではなく、たとえ特徴がなくとも、大概のものが市内でまかなうことができるような町づくりをすべきだと思う。水産物の養殖、畜産などが行われて、それがブランド化すれば喜ばしいと思う

◎駅前には商業施設など病院、徒歩圏内で生活できるようになると良いと思います。ハーヴェストウォークなども駅から遠いし、車中心の生活が主体となりますが、駅の利便性が上がることによって人も増え外国の人も生活しやすい環境を整えていく事も重要かと思います

◎首都圏に近いながら、その利点がなかなか発揮できない点で、将来の発展に疑問を感じる。若い人達が定住できる環境。商業は大手スーパー等があるが、街中が空洞化している

◎私が小山市間々田に移り住んで感じたのは自然の癒やしです。田畑や山、川がみえる風景、季節ごとに変化する風景を味わう事ができます。最近道路も整備され、買い物する施設も増え便利になりました。それも生活する上で大切なことです。一方自然環境緑を維持していくのも大変な労力のかかることかもしれません。最近感じたのは桜の木も老木になってきたな・・・と。地元の新鮮野菜はいつまでもあってほしい。私も家庭菜園で仲間づくりも兼ねています

3.産業の面から

◎工業都市(税収)と自然環境を維持した農業や住宅団地造成等 バランス良く

◎商業、工業、農業が一体となって取り組めるような都市環境

◎地元の農業や畜産その他を優先して各家庭でも当たり前のように使われるくらいの価格で、子供たちも「小山の〇〇」って普通に話ができるくらい広まればよい

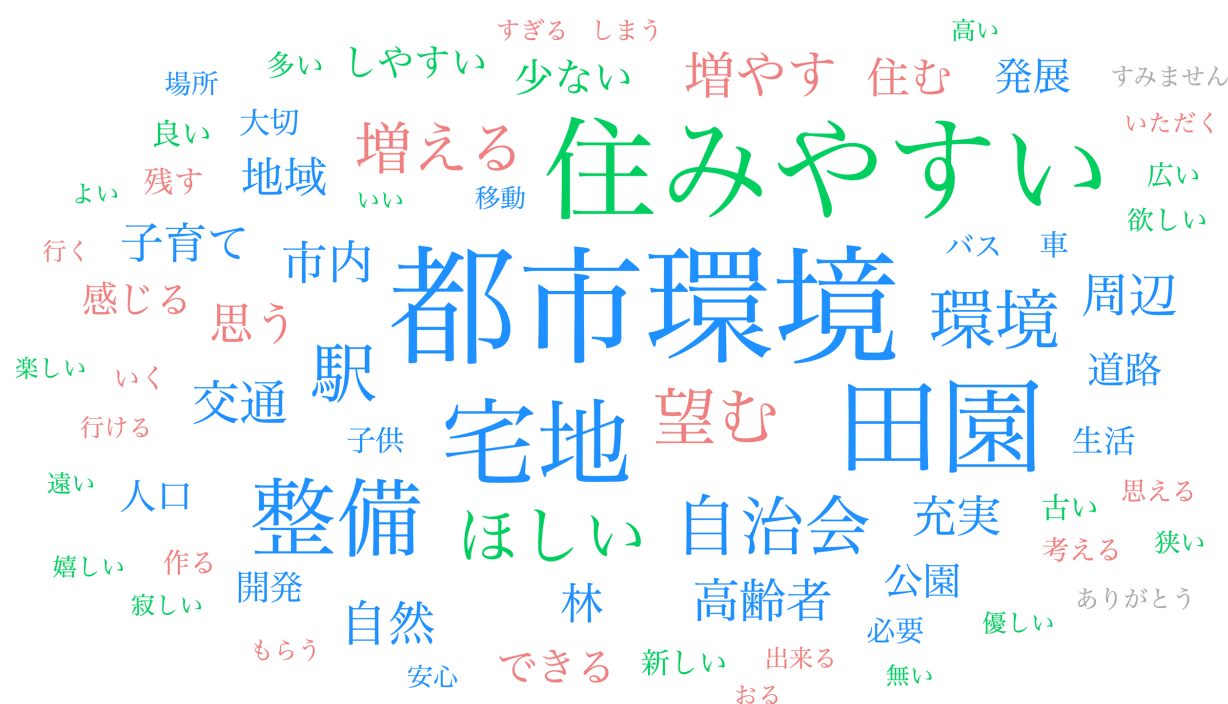
◎これからは食料の確保が重要な時代に入ると思う。農業の後継者問題に真摯に取り組んでほしい。

7-5 自由記述からの頻出キーワード

【7】の自由記述欄（30年後へのご意見）に寄せられたコメント全件で多用された言葉を、1つの参考として紹介する。

テキストマイニングという解析ツールによるキーワードの抽出で、基本的には、大きく表示されたものほど、語られた回数が増えている。ただし、「一般的な文書でよく使用される単語（思う。考える。私、など）は統計処理の際の重み付けを軽くし、一般的な文書ではあまり出現しないが調査対象の文書だけに多く出現する特徴のある単語は重視する」という処理方式を行っている。

【7】自由記述 27509 字から抽出(※ユーザーローカル AI テキストマイニング <https://textmining.userlocal.jp/> によるキーワード抽出)



参考・引用文献

本報告書を作成するにあたり引用した文献を中心に、小山市、絹地区の地域調査・研究を行う上で参考となると思われる文献をまとめる。文献は、作業の中で主にどの分野の情報を得るために用いたかに基づき、仮に項目を分けて整理した。

1 風土の定義

藺田稔編『神道』弘文堂、1988 年

アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン『生活世界の構造』那須壽監訳、筑摩書房、2015 年

和辻哲郎『風土—人間学的考察』岩波書店、1979 年

オギュスタン・ベルク『風土の日本—自然と文化の通態』篠田勝英訳、筑摩書房、1988 年

廣重剛史『意味としての自然—防潮林づくりから考える社会哲学』勁草書房、2018 年

廣瀬俊介「風土形成の一環となる環境デザインについて：人文科学における研究成果の参照による風土概念検討を通して」『景観生態学』21 (1)、日本景観生態学会、2016 年、15-21 頁
<https://doi.org/10.5738/jale.21.15>

2 地質・地形・土壌

小山市教育研究所編『小山市郷土文化研究誌 第 13 集』小山市教育研究所、1971 年

国土地理院 | 地理院地図
<https://maps.gsi.go.jp>

国土地理院 | 明治期の低湿地データ | 原典資料: 第一軍管地方二万分一迅速図原図 (明治 13-19 年)

https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/lc_meiji.html

国土地理院 | 空中写真閲覧サービス
<https://geolib.gsi.go.jp>

国立研究開発法人 産業技術総合研究所 地質調査総合センター | 地質図 Navi
<https://gbank.gsj.jp/geonavi/>

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 | 日本土壌インベントリー
<https://soil-inventory.rad.naro.go.jp/>

田辺晋「関東平野中央部における沖積層の基盤地形」『地質学雑誌』127 (10)、2021 年、635-648 頁
<https://doi.org/10.5575/geosoc.2021.0019>

木森大我・須貝俊彦「DEM-GIS 解析からみた、氷期の開析地形による制約下での鬼怒川の完新世堆積作用と地形変化」日本地球惑星科学連合 2019 年大会発表ポスター HQR05-P06 予稿 (PDF)
<https://confit.atlas.jp/guide/event-img/jpgu2019/HQR05-P06/public/pdf?type=in&lang=ja>

栃木県「栃木県地盤変動・地下水位調査報告書」2013 年
栃木県「栃木県地盤変動・地下水位調査報告書」2021 年
<https://www.pref.tochigi.lg.jp/d03/eco/kankyoku/hozen/2021jibannhoukokusho.html>

野上道男「関東とその周辺地域の地質」『日本の地形 4 関東・伊豆小笠原』東京大学出版会、2000 年

篠宮佳樹「樹木医学の基礎講座 土壌講座 2: 保水性と通気性」『樹木医学研究』15 (2)、樹木医学会、2011 年、64-67 頁

3 気候

小山市教育研究所編『小山の自然と社会』小山市教育委員会、1965 年

五十嵐典夫ほか『益子の歴史』益子町、1983 年

栃木の自然 編集委員会編『栃木の自然をたずねて』築地書館、1997 年

気象庁 | 過去の気象データ検索

<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>

気象庁 | 大雨や猛暑日など (極端現象) のこれまでの変化
| [全国 13 地点] 日最高気温 35℃以上 (猛暑日) の年間
日数

https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/extreme/extreme_p.html

4 生物と生態系

Millennium Ecosystem Assessment 編『国連ミレニアム
エコシステム評価 生態系サービスと人類の将来』横浜国立
大学 21 世紀 COE 翻訳委員会責任翻訳、オーム社、2007 年

栃木県 | レッドデータとちぎ WEB

<http://tochigi-rdb.jp/>

環境省 | 生物多様性センター | 自然環境調査 Web-GIS

<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>

風間健太郎「鳥類がもたらす生態系サービス: 概説」『日本
鳥学会誌』64 (1)、2015 年、3-23 頁

片山直樹・熊田那央・田和康太「鳥類の生息地としての水
田生態系とその保全」『応用生態工学』24 (1)、応用生態工
学会、2021 年

David A. Milton. Threatened shorebird species of the
East Asian-Australian Flyway. Wader Study Group
Bulletin 100. 2003. pp. 105-110.

WWF ジャパン | 渡り鳥にとって大切な場所はどこ? 重要
渡来地マップを作成

<https://www.wwf.or.jp/activities/lib/3458.html>

鈴木由清「小山市におけるシギ・チドリの渡りについて」
2024 年

大澤啓志「農村ランドスケープにおける両生類の特徴と農
村計画」『農村計画学会誌』35 (4)、農村計画学会、
2017 年、473-476 頁

5 歴史

小山市史編さん専門委員会編『小山市史通史編 I 自然 原
始・古代 中世』小山市、1984 年

小山市史編さん専門委員会編『小山市史 通史編 II 近世』
小山市、1986 年

小山市史編さん専門委員会編『小山市史 通史編 III 近現
代』小山市、1987 年

原宏『小山の歴史—ひとと まちの あゆみ』随想舎、2023
年

小山市教育研究所『小山の自然と社会』小山市教育委員会、
1965 年

小山市「おやま百景」

https://www.city.oyama.tochigi.jp/kankou-bunka/rekishi_bunka/oyama100/page000053.html

静岡県立中央図書館 | 和暦西暦対照表 (近世) |

https://www.tosyokan.pref.shizuoka.jp/contents/institution/wareki_seireki_E.html

6 地形と陸上・河川交通

阿部昭、橋本澄朗、千田孝明、大嶽浩良『栃木県の歴史』山川出版社、1998 年

『第 123 回企画展 下野の鎌倉街道』栃木県立博物館、2019 年

高橋修、字留野主税『鎌倉街道中道・下道』高志書院、2017 年

奥田久『内陸水路の歴史地理学的研究 - 近世下野国の場合』大明堂、1977 年

奥田久監修『栃木の水路』栃木県文化協会、1979 年

7 防災・減災

大熊 孝「水害防備林の再興に関する一考察」『土木史研究』17、土木学会、1997 年

8 遺跡

末次忠司「縄文遺跡と河川—遺跡で見る河川考古学」『水利科学』43 (1)、一般社団法人日本治山治水協会、1999 年

栃木県小山市教育委員会「乙女不動原北浦遺跡発掘調査報告書」1979 年

栃木県小山市教育委員会「千駄塚浅間遺跡発掘調査報告書」1996 年

9 農業

『栃木県下都賀郡誌（復刻版）』千秋社、2004 年（「下都賀郡小誌」「下都賀郡制誌」を合本収録）

村上直「近世における小山市域の諸村の様相について」小山市史編さん専門委員会編『小山市史研究』2、小山市企

画部市史編さん室、1979 年、26-47 頁

高木正敏「近世林野入会の成立——一七世紀後半期下野国を中心として」小山市史編さん専門委員会編『小山市史研究』4、小山市教育委員会市史編さん室、1982 年、45-65 頁

10 民俗

嘉納恵一郎『心のふるさと』小山市、1991 年

11 信仰・祭礼

小山市史編さん専門委員会編『小山市史民俗編』小山市、1978 年

小山市教育委員会編「間々田のジャガマイタ調査報告書」2017 年

12 地名

菅間久男『小山市の地名由来と歴史』随想舎、2006 年

角川日本地名大辞典編さん委員会編『角川日本地名大辞典 9 栃木県』角川書店、1984 年

13 間々田地区郷土誌

住みよい間々田推進協議会編・発行「ままだふるさとマップ」2013 年

わがまちげんき「ままだ」発掘事業実行委員会編「ままだ風物詩」2017 年

14 建築

平山育男「山居倉庫 倉庫の明治時代における沿革と使用される釘について」『日本建築学会計画系論文集』86(779)、2021 年、269-275 頁

15 教育

国土緑化推進機構「学校林現況調査（令和3年調査）」2022

年、6、8、12 頁

<https://www.green.or.jp/archives//media-download/342/00ded331d00d23a/PDF/>

池 俊介「森林における自然観察学習の展開」『新地理』

35(3)、1987 年、1-9 頁

田園環境都市おやまビジョン 基礎資料
間々田地区

2025 年 1 月

小山市